

データヘルス計画（第2期） 年次報告書

[令和2年度]

最終更新日：令和 3 年 06 月 28 日

溪仁会健康保険組合

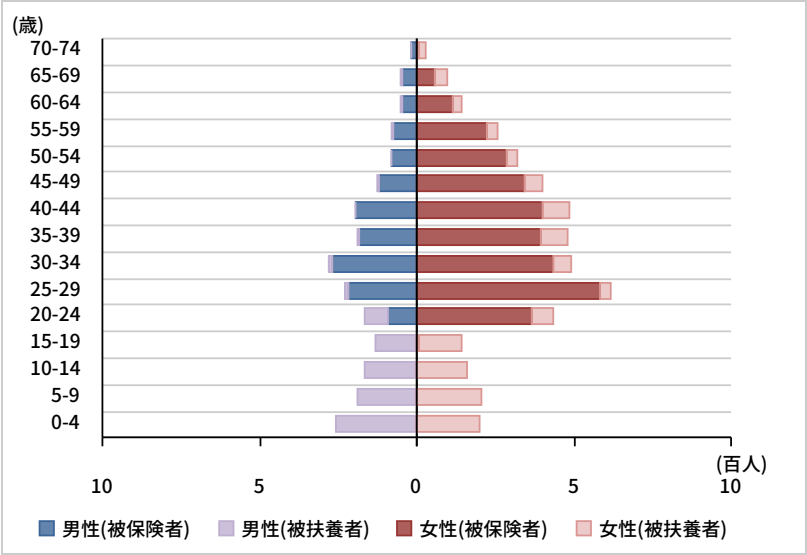
STEP 1 - 1 基本情報

組合コード	10701		
組合名称	溪仁会健康保険組合		
形態	単一		
業種	医療、福祉		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保 険者を除く	4,555名 男性29.6% (平均年齢39.3歳) * 女性70.4% (平均年齢38.7歳) *	4,668名 男性29.6% (平均年齢39.5歳) * 女性70.4% (平均年齢38.89歳) *	4,776名 男性29.9% (平均年齢38.9歳) * 女性70.1% (平均年齢38.4歳) *
特例退職被保険 者数	0名	0名	0名
加入者数	6,674名	6,791名	6,897名
適用事業所数	16ヵ所	16ヵ所	16ヵ所
対象となる拠点 数	16ヵ所	16ヵ所	16ヵ所
保険料率 *調整を含む	102‰	102‰	102‰

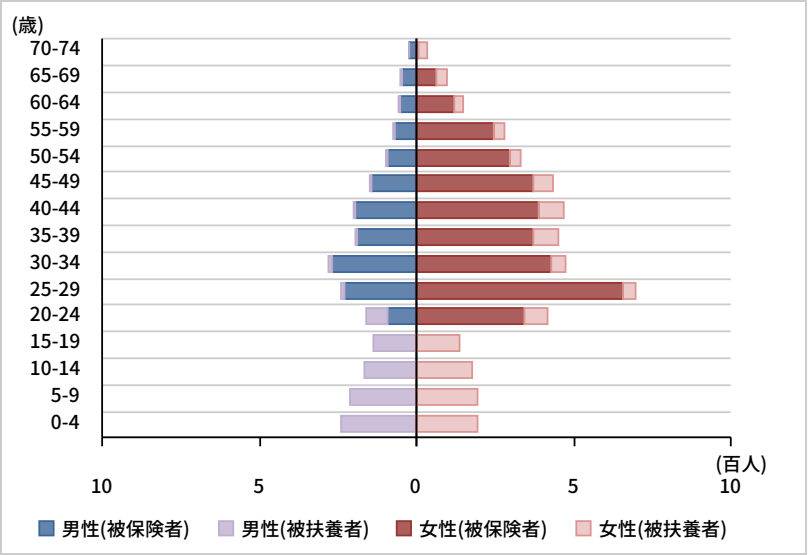
		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	0	0	0	0
	保健師等	0	0	1	0	0	1
事業主	産業医	5	6	5	5	5	5
	保健師等	1	0	3	0	0	3
		第2期における基礎数値 (平成28年度の実績値)					
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数÷ 特定健康診査対象者数)	全体	2,038 / 2,264 = 90.0 %					
	被保険者	1,883 / 1,922 = 98.0 %					
	被扶養者	155 / 342 = 45.3 %					
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数÷ 特定保健指導対象者数)	全体	173 / 314 = 55.1 %					
	被保険者	168 / 304 = 55.3 %					
	被扶養者	5 / 10 = 50.0 %					

		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	1,374	302	1,694	363	1,552	325
	特定保健指導事業費	3,917	860	2,986	640	3,244	679
	保健指導宣伝費	2,359	518	2,324	498	6,073	1,272
	疾病予防費	44,573	9,786	84,810	18,168	78,881	16,516
	体育奨励費	545	120	1,050	225	914	191
	直営保養所費	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
	小計 …a	52,768	11,585	92,864	19,894	90,664	18,983
	経常支出合計 …b	2,013,703	442,086	2,154,666	461,582	2,051,358	429,514
	a/b×100 (%)	2.62		4.31		4.42	

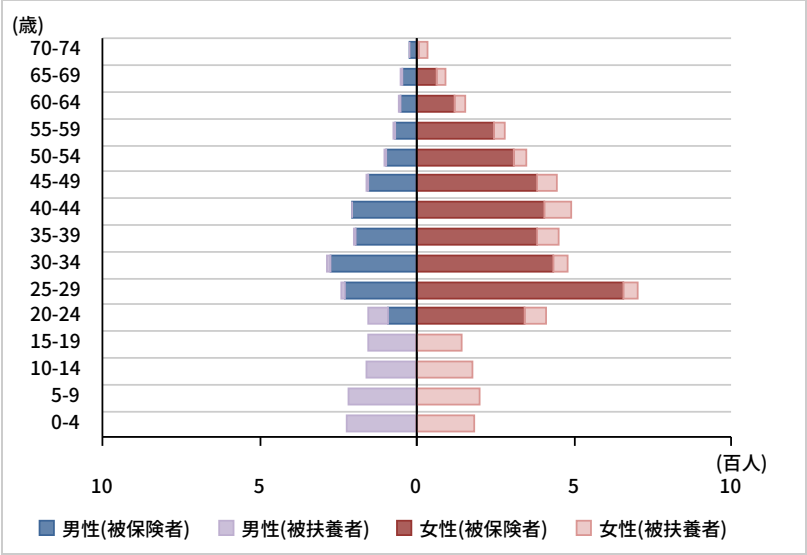
平成30年度



令和元年度



令和2年度



男性（被保険者）

平成30年度				令和元年度				令和2年度			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	0人	15～19	1人	10～14	0人	15～19	1人	10～14	0人	15～19	1人
20～24	94人	25～29	220人	20～24	90人	25～29	227人	20～24	90人	25～29	227人
30～34	269人	35～39	182人	30～34	266人	35～39	186人	30～34	276人	35～39	196人
40～44	196人	45～49	122人	40～44	192人	45～49	143人	40～44	207人	45～49	153人
50～54	78人	55～59	77人	50～54	90人	55～59	70人	50～54	98人	55～59	70人
60～64	44人	65～69	46人	60～64	49人	65～69	44人	60～64	49人	65～69	44人
70～74	20人			70～74	23人			70～74	23人		

女性（被保険者）

平成30年度				令和元年度				令和2年度			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	0人	15～19	8人	10～14	0人	15～19	0人	10～14	0人	15～19	0人
20～24	368人	25～29	580人	20～24	344人	25～29	658人	20～24	344人	25～29	658人
30～34	433人	35～39	393人	30～34	427人	35～39	371人	30～34	437人	35～39	381人
40～44	400人	45～49	341人	40～44	389人	45～49	370人	40～44	404人	45～49	380人
50～54	285人	55～59	221人	50～54	297人	55～59	243人	50～54	307人	55～59	243人
60～64	115人	65～69	56人	60～64	119人	65～69	65人	60～64	119人	65～69	65人
70～74	6人			70～74	4人			70～74	4人		

男性（被扶養者）

平成30年度				令和元年度				令和2年度			
0～4	257人	5～9	191人	0～4	239人	5～9	209人	0～4	223人	5～9	216人
10～14	165人	15～19	129人	10～14	165人	15～19	137人	10～14	162人	15～19	152人
20～24	72人	25～29	14人	20～24	69人	25～29	10人	20～24	61人	25～29	9人
30～34	11人	35～39	5人	30～34	12人	35～39	5人	30～34	13人	35～39	4人
40～44	1人	45～49	7人	40～44	3人	45～49	5人	40～44	1人	45～49	6人
50～54	2人	55～59	6人	50～54	3人	55～59	7人	50～54	3人	55～59	8人
60～64	8人	65～69	4人	60～64	8人	65～69	6人	60～64	6人	65～69	7人
70～74	1人			70～74	2人			70～74	2人		

女性（被扶養者）

平成30年度				令和元年度				令和2年度			
0～4	201人	5～9	203人	0～4	192人	5～9	193人	0～4	183人	5～9	199人
10～14	159人	15～19	135人	10～14	175人	15～19	135人	10～14	179人	15～19	143人
20～24	69人	25～29	32人	20～24	75人	25～29	39人	20～24	69人	25～29	43人
30～34	59人	35～39	85人	30～34	46人	35～39	78人	30～34	46人	35～39	70人
40～44	85人	45～49	59人	40～44	80人	45～49	64人	40～44	86人	45～49	62人
50～54	34人	55～59	35人	50～54	37人	55～59	36人	50～54	40人	55～59	36人
60～64	26人	65～69	41人	60～64	29人	65～69	33人	60～64	32人	65～69	29人
70～74	23人			70～74	31人			70～74	31人		

基本情報から見える特徴

- ・被保険者のうち、女性が70.1%、平均年齢は38.7歳である。
- ・女性のがん検診およびライフスタイル改善プログラム等の企画を図る。
- ・高齢者納付金等の影響により、保健事業費予算が2.35%確保できない。
- ・特定保健指導の実施率が微増である。
- ・被扶養者の特定健診実施率は50%超になっていない。
- ・被保険者の年齢が増加してきているため、生活習慣病の重症化予防が課題である。

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴
・被保険者の特定保健指導実施率向上及び健診結果異常値放置者対策の実施。
・事業主と健保組合、健診機関とのコラボヘルスの更なる推進。
・被扶養者の特定健診受診率向上
・限られた保健事業予算ではあるが、メンタルヘルス・歯周病予防・ウォーキング等の事業を実施し、被保険者への健康意識の啓蒙を図る。

事業の一覧

職場環境の整備	
疾病予防	メンタルヘルス事業
加入者への意識づけ	
特定健康診査事業	被扶養者・任意継続者の特定健康診査
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	機関紙の発行
保健指導宣伝	疾病予防資料「医療費のお知らせ」の発行
保健指導宣伝	後発医薬品の差額通知の発行
保健指導宣伝	出産育児情報誌の配付
保健指導宣伝	家庭常備薬特別斡旋
保健指導宣伝	歯周病予防と喫煙対策キャンペーン
疾病予防	被保険者の年齢階層別「総合健診」の補助
疾病予防	被保険者のがん検診の補助
疾病予防	被扶養者・任意継続者のがん検診
疾病予防	被扶養者・任意継続者の総合健診
疾病予防	奥さま健診
疾病予防	健診異常値放置者対策受診勧奨事業
体育奨励	健康づくり事業への補助
個別の事業	
事業主の取組	
1	労働安全衛生法による定期健康診断

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2)評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備													
疾病予防	6	メンタルヘルス事業	【目的】メンタル疾患の休業者を防止する。 【概要】産業保健支援「まめやか相談室」の専門職によるセミナー、メンタル相談、復帰等の活動を支援する。	被保険者 被扶養者	全て	男女	16～74	全員		・4月4日【手稲溪仁会病院新入職員オリエンテーション・メンタルヘルス・セル・5月11日【溪仁会グループ新任役職者研修会】（産業カウンセラー） ・6月14日、20日、7月4日、12日【溪仁フケア研修】（羽岡医師） 溪仁会グループ新人フォローアップ研修会】（産業カウンセラー） ・9月15日【溪仁会グループ管理職のためのメンタルヘルス、ハラスメント労務管理研修会】（羽岡医師） ・9月21日、26日【コミ八雲ハラスメントセミナー】（産業カウンセラー） 【相談件数：述べ501件（うち新規相談116件）】	・メンタルヘルス不調者の軽減、メンタル傷病者の減少及び事業所の安全衛生管理状況把握による医療費の減少。	・専門職の活動や広報により、相談室は広く認知された。 ・労働安全衛生法による衛生管理及び事業所の管理職の理解や対応にそれぞれ差があるため、今後もラインケア教育やセルフケア教育活動の継続が必要である。	1
加入者への意識づけ													
特定健康診査事業	3	被扶養者・任意継続者の特定健康診査	【目的】生活習慣病予防と健康意識の向上を図る。 【概要】全額健保組合負担、子宮がん検診、乳がん検診も健保組合が全額補助し受診勧奨をする。	被扶養者	全て	男女	40～74	全員	931	対象者350名、受診者164名(前年度比+29名)、受診率46.86%	・5月、対象者の自宅宛てに受診券＋健診案内を発送した。 ・12月、溪仁会円山クリニックから受診者にクオカード2,000円を進呈する感謝企画が提案され、「受診勧奨キャンペーン」として、未受診者に対して、キャンペーンを実施した。	・被扶養者の健診受診率を向上するには、キャンペーン等の案内企画の継続が必要である。 ・事業主も情報提供を実施し、被保険者からの積極的な働きかけが必要である。	2
特定保健指導事業	4	特定保健指導	【目的】メタボのリスクによる生活習慣の見直しや改善をサポートする。 【概要】該当者に利用券を発行し、全額健保組合負担で実施する。	被保険者 被扶養者	全て	男女	35～74	基準該当者	242	①動機づけ支援対象者153名、受診者25名（前年度比+6名） ②積極的支援対象者115名、受診者7名(前年度比±0名) 計：受診者合計32名、実施率11.9%（前年度対+6名）	・平成29年12月、事業所と健保組合のコラボヘルス推進について、覚書及び確認書を取り交わした。 ・特定保健指導対象者の「利用券」は、健保組合と事業所担当者の情報連携により、事業所経由で対象被保険者に渡す体制となった。	・事業所側の産業医、衛生管理者、健診事務担当者と溪仁会円山クリニック保健師等が、実施に向けて積極的に打合せを開始した。 ・事業所側の勤務シフト調整や積極的な動きがさらに必要である。	2
保健指導宣伝	5	機関紙の発行	【目的】健保組合の運営状況や医療費の適正化等の情報提供。 【概要】年2回、「けんぼだより」を発行し、健保組合の事業運営、法改正、健康・医療等の情報提供を実施する。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	1,274	No.14号4,600部(平成29年8月)発行、No.15号4,800部(平成30年4月)発行	・被保険者等への情報提供や周知事項等を活性化するため、最低でも年4回（春夏秋冬）の発行を検討する。	・機関誌の内容、発行回数等を含め、被保険者への配付方法等の検討が必要である。	4
	4,5	疾病予防資料「医療費のお知らせ」の発行	【目的】加入者への医療費コスト意識を高める。 【概要】医療費通知書を発行し、事業主経由で被保険者へ配付する。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	302	・平成30年2月(年1回)ハガキサイズでシーリング加工した医療費通知書「医療費のお知らせ」を発行	・年4回程度に分割して発行できれば、医療費コスト意識について、より啓蒙ができる。	・費用やシステム環境により、変更が難しいので要検討とする。	3
	8	後発医薬品の差額通知の発行	【目的】医療費の抑制を推進する。 【概要】医療費の適正化情報提供をする。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0～74	全員	0	・「ジェネリック医薬品」に切り替えた場合、3千円以上の支払差額該当者や疾病等の抽出条件により発行 ※平成29年度の使用割合75.45%(前年度比+2.27%) 薬剤費割合50.71%(前年度比+3.01%)	①「後発医薬品差額通知」については、年2回疾病分類等の条件抽出により発行する。 ②ポスター等の啓蒙活動を継続する。	・一度「差額通知」を発行した被保険者に毎回発行すると苦情となるため、抽出条件の変更や隔年発行等の対応が必要である。	3
	5	出産育児情報誌の配付	【目的】子育て支援と職場復帰支援をする。 【概要】出産された被保険者に育児情報誌を1年間配付する。	被保険者	全て	女性	18～74	全員	412	・出産された被保険者95名に、育児情報誌「赤ちゃん和妈妈」を1年間配付する。	・情報誌配付後の読者アンケート結果では、読みやすく、情報が分かり易い、役に立ったとの意見もあり好評である。	・「0歳～6歳までの転倒予防」冊子の配付や、被扶養者で出産された方も対象に配付できるように検討する。	5
	8	家庭常備薬特別斡旋	【目的】健康管理の一助。 【概要】事業所単位で家庭常備薬特別斡旋申込書にて購入。(支払は申込者個人)	被保険者	全て	男女	18～74	全員	0	・年2回(5月、11月)実施 ①平成29年5月、購入者346名、購入額1,320(千円) ②平成29年11月、購入者356名、購入額1,276(千円)	・商品については、季節や要望により見直しを行い、家庭常備薬等を安価で提供し、セルフメディケーションを啓蒙する。	・毎回、同数程度の購入者がいることと、セルフメディケーション啓蒙のため継続する。	5

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	5	歯周病予防と喫煙対策キャンペーン	【目的】歯周病予防と喫煙による健康影響意識向上を図る。 【概要】歯科医療費や歯科疾患が多い事業所を抜粋し、職員に歯みがきセットを配付し、歯科医師や歯科衛生士が指導し、歯みがきを実践しアンケートを実施する。	被保険者	一部の事業所	男女	18～74	全員	181	①円山ハーティケアセンター(平成29年8月22日から1か月間実施、歯みがき実施者32名) ②きもべつ喜らめきの郷(平成29年9月27日から1か月間実施、歯みがき実施者25名) ③青葉ハーティケアセンター(平成29年10月12日から1か月間実施、歯みがき実施者32名)	・事業所に歯ブラシセットを配付するだけではなく、健保組合全体の医療費や事業所の医療費及び疾病等を説明する。 ・歯科衛生士による口腔ケアや歯周病予防、喫煙による影響のセミナーを実施することで健康と口腔ケアを日常生活で意識する啓蒙が重要である。	・被保険者全体に普及させる予算計上と歯みがきによる医療費減少効果測定に年数を要する。	4
疾病予防	3	被保険者の年齢階層別「総合健診」の補助	【目的】年齢階層別に健診コースを設定し、健診データの管理、病気の早期発見及び早期治療をする。 【概要】35歳以上75歳未満の被保険者を対象に費用の一部を健保組合が補助する。	被保険者	全て	男女	35～74	全員	26,183	・Aコース(35～40歳未満)1人当たり8,100円補助、受診者数519名 ・Bコース(40～55歳未満)1人当たり20,520円補助、受診者数1,281名 ・Cコース(55～65歳未満)1人当たり20,520円補助、受診者数408名 ・Dコース(65～75歳未満)1人当たり20,520円補助、受診者数83名 ・合計2,291名	・年代別に健診コースを設定したことにより、生活習慣病等のデータ管理がしやすく、有所見者を把握しやすい。 ・C、Dコースは、喫煙者に胸部CT検査を追加、男性には前立腺がん血液検査を追加した。 ・Dコースは、女性に骨粗鬆症検査を追加した。	・溪仁会グループ総合健診として、年齢階層別に健診を実施し、前年度までの人間ドック補助を廃止したことに対して一部不満がある。 ・各病院で独自に実施していた職員健康診断と、溪仁会円山クリニックで総合健診を受診する場合の検査項目の比較等については、今後も要望や課題を抽出して見直しが必要である。	4
	3	被保険者のがん検診の補助	【目的】がんの早期発見と早期予防を図る。 【概要】35歳以上75歳未満の被保険者を対象に各種がん検診費用の上限額を設定し健保組合が補助する。(但し、直接契約の溪仁会円山クリニックは特別料金により全額健保補助)	被保険者	全て	男女	40～74	全員	6,686	・胸部CT検査(55～75歳未満の喫煙者のみ)、受診者数102名 ・前立腺腫瘍マーカー検査(55～75歳未満の男性のみ)受診者数147名 ・乳がん検診(40～75歳未満の女性)受診者数656名 ・子宮(頸部)がん検診(18～75歳未満の女性)、受診者数727名	・各種がんの早期発見のため、個人負担金なしとして、受診しやすい環境を整える。	・受診率及び有所見者年齢等を把握し、対象年齢を検討する。	4
	3	被扶養者・任意継続者のがん検診	【目的】女性被扶養者・任意継続者のがん検診の早期発見と予防をする。 【概要】40歳以上75歳未満の女性被扶養者・任意継続者が、「総合健診」及び「特定健診」と同時に受診する場合のみ全額補助する。	被扶養者	全て	女性	40～74	基準該当者	843	・乳がん(マンモ、エー)検診、受診者91名(前年度比+29名) ・子宮(頸部)がん検診、受診者89名(前年度比+20名)	・受診者負担の無料化を継続する。	・受診率及び有所見者年齢等を把握し、検討する。	2
	3	被扶養者・任意継続者の総合健診	【目的】特定健診より詳しい健診を実施し、病気の早期発見、早期治療をする。 【概要】40歳以上75歳未満の被扶養者・任意継続者を対象に、費用の全額を健保組合が補助する。	被扶養者	全て	男女	40～74	基準該当者	1,958	・受診者150名(前年度比+29名)	・受診者負担の無料化を継続する。	・受診率及び有所見者年齢等を把握し、健診コース、健診機関等の検討する。	2
	3	奥さま健診	【目的】被扶養者である女性配偶者の健康管理に役立てる。 【概要】18～39歳までを対象に、健診+婦人科がん検診費用を全額補助する。	被扶養者	全て	女性	18～39	基準該当者	1,811	・受診者75名(前年度比-5名) ・乳がん(マンモ、エー)検診受診者64名(前年度比+13名) ・子宮(頸部)がん検診受診者61名(前年度比-5名)	・平成29年5月、対象者の自宅宛てに「受診券」と健診案内を発送した。 ・平成29年12月、未受診者に平成30年2月末までの受診期間を3月末まで延長する案内と受診勧奨ハガキを発送した。	・今後40歳の特定健診対象者になるため、自らの健康管理と家族の生活習慣改善意識向上を図る。	2
	4	健診異常値放置者対策受診勧奨事業	【目的】健診受診後、異常値を放置している被保険者および被扶養者に対して、早期発見、早期治療、生活習慣の改善の勧奨を行う。 【概要】被保険者の総合健診受診者、被扶養者の特定健診、奥さま健診受診者のうち、「C判定該当者」に受診アンケート等の受診勧奨奨通知を実施する。	被保険者被扶養者	全て	男女	18～74	基準該当者	0	平成29年度は、溪仁会円山クリニックに結果を確認した。 【特徴】腹部II-(受診者30名、未受診者11名)、乳がん検診(受診者68名、未受診者13名)、血中脂質(受診者44名、未受診者109名)	・健診結果C判定では、腫瘍疑い、画像診断結果等は該当者が自ら受診している。 ・一方、血中脂質等の生活習慣に関わる受診は少ない状況にある。 ・生活習慣が及ぼす疾病についての研修や啓蒙が重要である。	【事業主とのコラボヘルス】が重要。事業主側の労働安全衛生法による健診データ管理、被保険者への積極的な健診後の事後指導が必要である。	2

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2)評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
体育奨励	8	健康づくり事業への補助	【目的】加入事業所職員の健康増進とコミュニケーションを図る。 【概要】浜仁会グループが主催する各運動行事等に一部補助を実施する。	被保険者	全て	男女	18～74	全員	159	①平成29年10月9日、【浜仁会グループ主催ソフトボール大会】参加者14チーム、226名に参加費等91千円を補助。 ②【ウォーキングキャンペーン】今年度初の実施で、300名限定で2ヶ月間のウォーキングを広報したが、参加64名（歩数登録者58名）、合計歩数5億8938万8472歩。 サイト初期導入費用54千円、参加費1人1ヶ月100円	・参加者に健保組合からの補助を強調する。 ・誰でも簡単に実施できるウォーキングによる健康増進を意識付ける企画を継続する。 ・事業主とのコラボによる啓発活動も健康増進に必要である。	・ウォーキングキャンペーンは、当初は当組合独自に開催する準備をしていたが、実施時期9月に急遽、健保連がウォーキング歩数により、熊本地震の被災者への復興支援の寄付金として、「社会貢献型インセンティブ」モデル事業が打ち出された。 ・上記に参加することにより、サイト初期導入費用及び参加費が半額となるという利点もあり共同参加した。 ・しかし、参加した被保険者からは、復興支援は理解できるが、目に見える形でのインセンティブや復興貢献歩数が分かりにくいという意見があった。	3

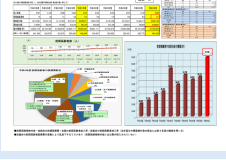
個別の事業

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 訪問指導 8. その他
注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同 実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
労働安全衛生法による定期健康診断	職員の健康診断による健康管理	被保険者	男女	18 ～ 74	・労働安全衛生法による定期健康診断、特定業 ～ 務従事者（夜勤者、電離放射線等）の健診を実 施している。	・平成29年12月28日より、健診受診後の健診結 果の把握と要再検査者・要精密検査者のフォロ ーアップ、特定保健指導の実施についても、健 保組合と事業所のコラボヘルスの公表により開 始した。	・全ての事業所で定期健康診断及び年齢階層別 の「総合健診」等を実施しているが、健診後の 事後指導及び特定保健指導等の実施においては 、今一歩踏み込んだ対応が必要である。	有

STEP 1-3 基本分析

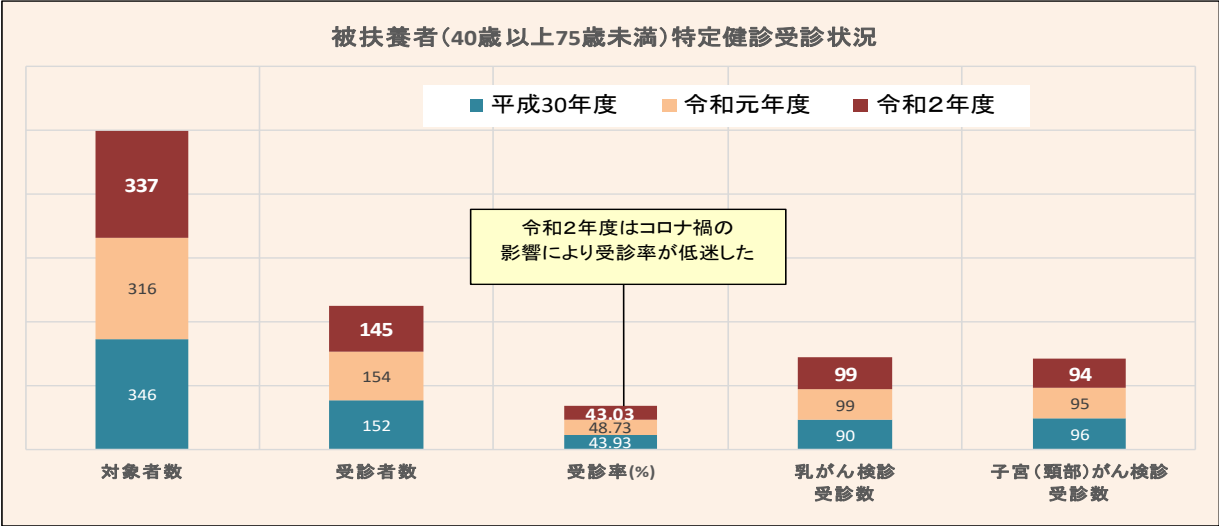
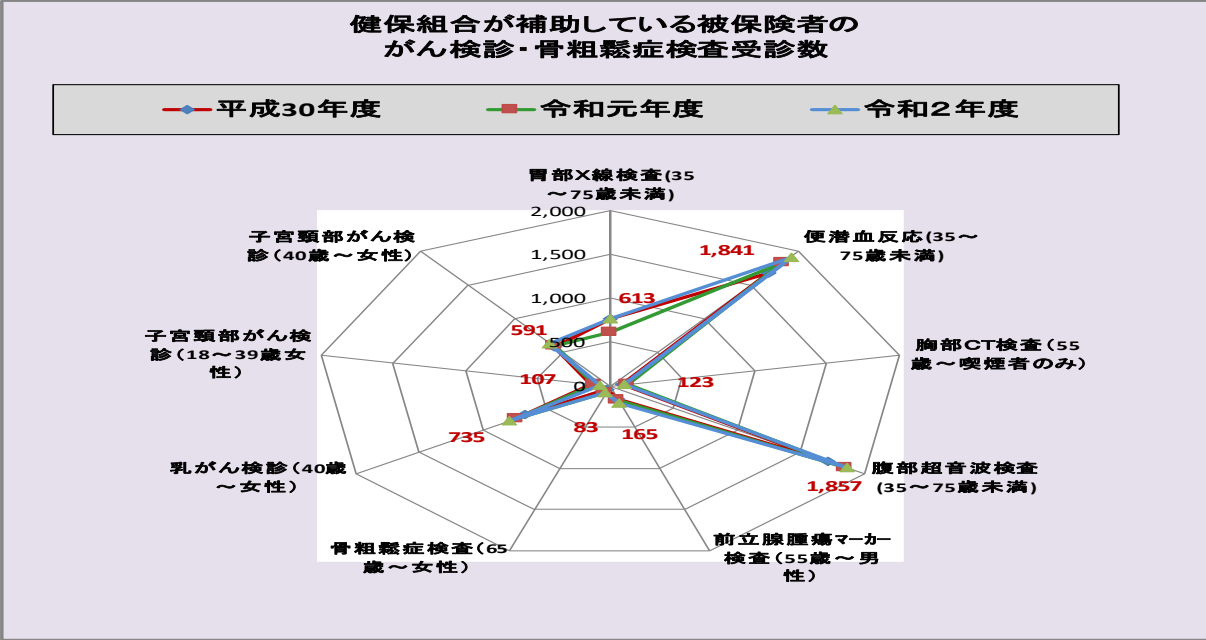
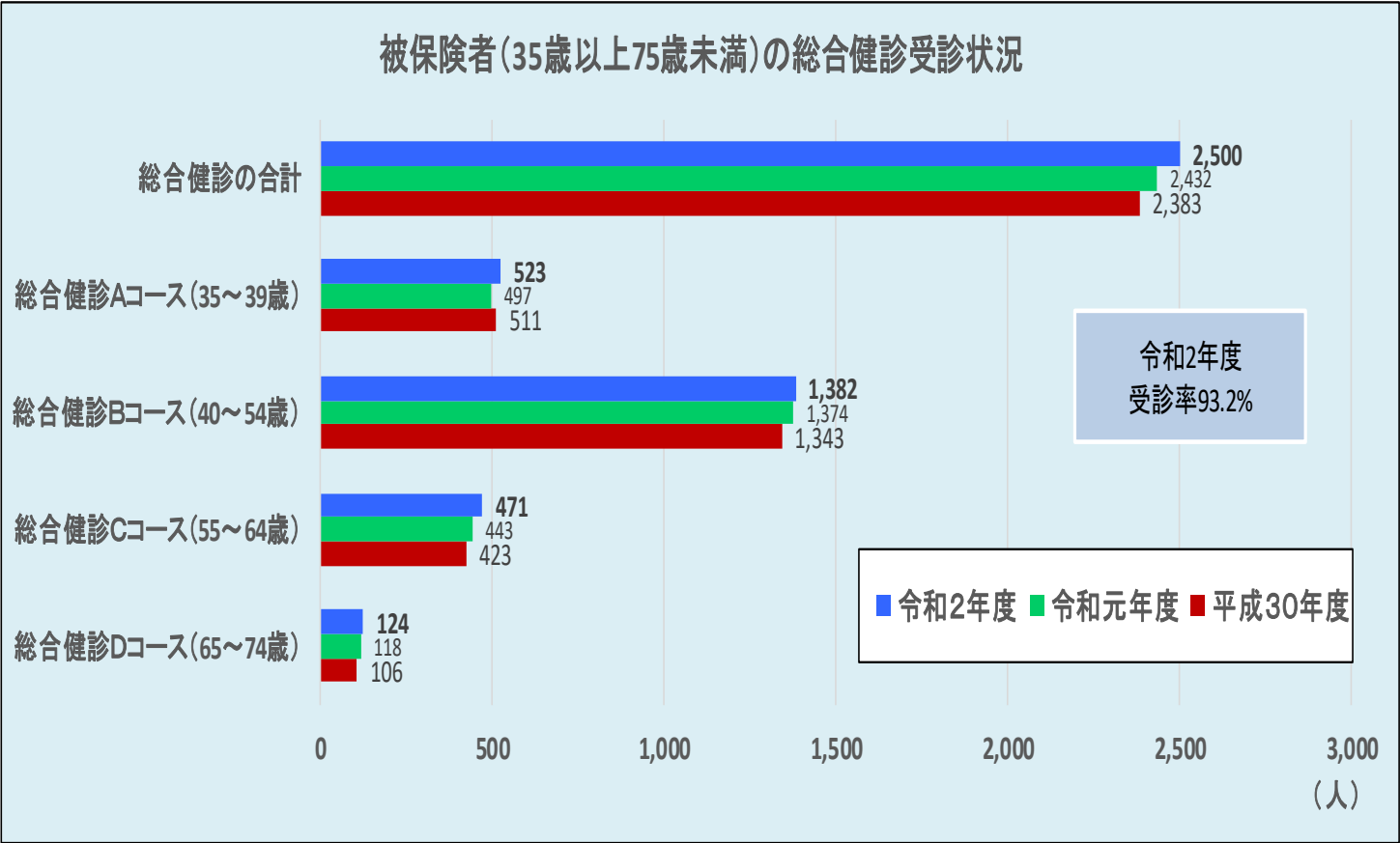
登録済みファイル一覧

記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		各種健診・がん検診・特定保健指導の実施状況	特定健診分析	3年間の被保険者「総合健診」、被扶養者の特定健診、特定保健指導、がん検診の実施状況
イ		被保険者・被扶養者別 疾病分類別傷病分配別医療費	医療費・患者数分析	- 被保険者・被扶養者別 疾病分類別傷病分配別医療費 - 被保険者の生活習慣病医療費の推移
ウ		傷病手当金の給付状況及びメンタル系疾患の状況	医療費・患者数分析	傷病手当金の給付状況及びメンタル系疾患の状況
エ		前期高齢者医療費等の状況	医療費・患者数分析	・前期高齢者医療費等の状況（前期高齢者数、給付費額、疾病別傷病別医療費割合）
オ		喫煙者と非喫煙者の医療費比較、被扶養者の呼吸器系疾患	健康リスク分析	- 喫煙者と非喫煙者の医療費比較・ - 被扶養者の呼吸器系疾患予防及び啓発活動「つよい子になるぞ！」キャンペーンの結果
カ		歯科予防プログラムの結果と歯科医療費対策	健康リスク分析	- 歯科予防プログラム「デンタルIQチェック」の結果 - 歯科医療費及び予防対策

キ		健康増進(ダイエット)プログラム実施状況	医療費・患者数分析	・運動、栄養、体力測定を3か月間実践することにより、生活習慣病の予防及び改善を図る。
---	--	----------------------	-----------	--

令和2年度 各種健診・がん検診・特定保健指導の実施状況

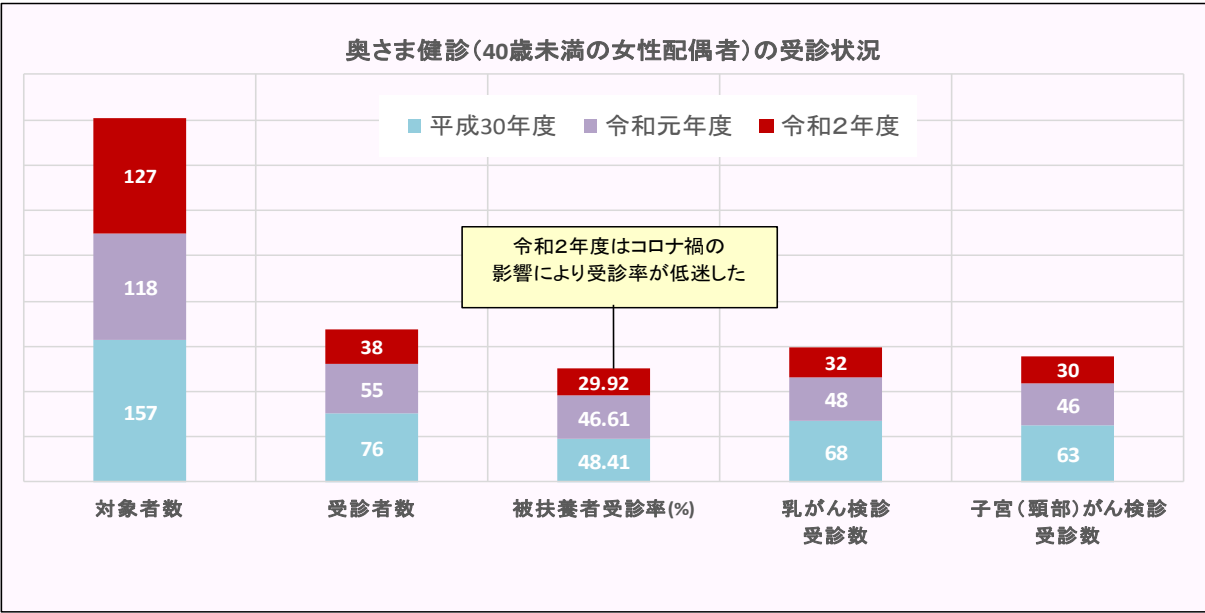
図表・ア

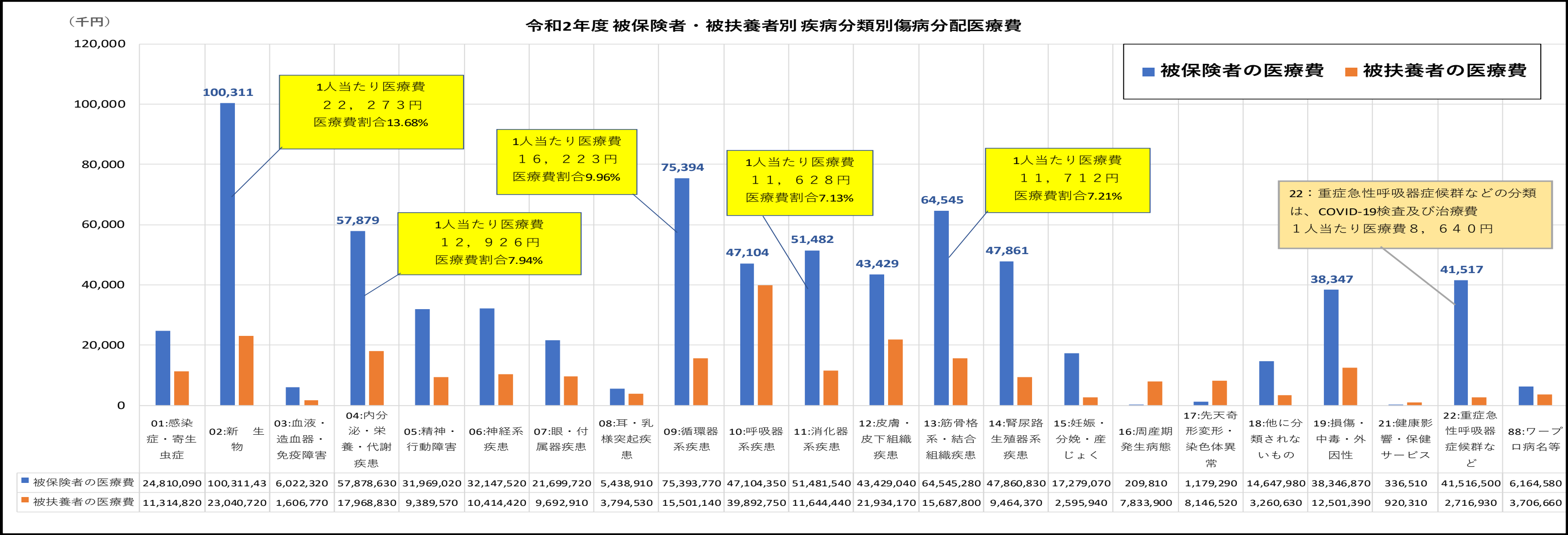


特定保健指導(35～75歳未満の加入者)の実施状況

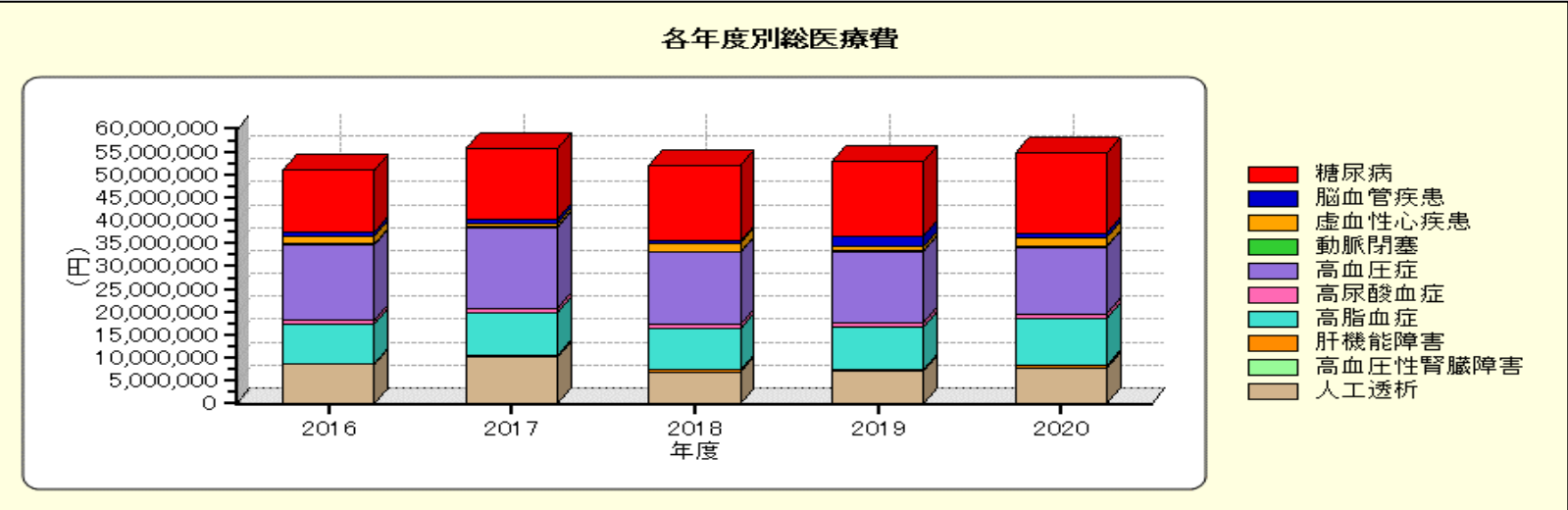
2021/5/28更新情報

	平成30年度			令和元年度			令和2年度(令和3年5月末現在)		
	対象者数	評価終了実施者数	実施率	対象者数	評価終了実施者数	実施率	対象者数	評価終了実施者数	実施率
動機づけ支援	164	48	29.3	146	48	32.9	179	101	56.4
再掲(35～39歳)	23	8	34.8	29	7	24.1	40	11	27.5
積極的支援	121	36	29.8	115	48	41.7	143	72	50.3
再掲(35～39歳)	30	15	50.0	24	7	29.2	31	16	51.6
合計	285	84	29.5	261	96	36.8	322	173	53.7
合計(国への報告40歳以上75歳未満)	232	61	26.3	208	82	39.4	251	146	58.2

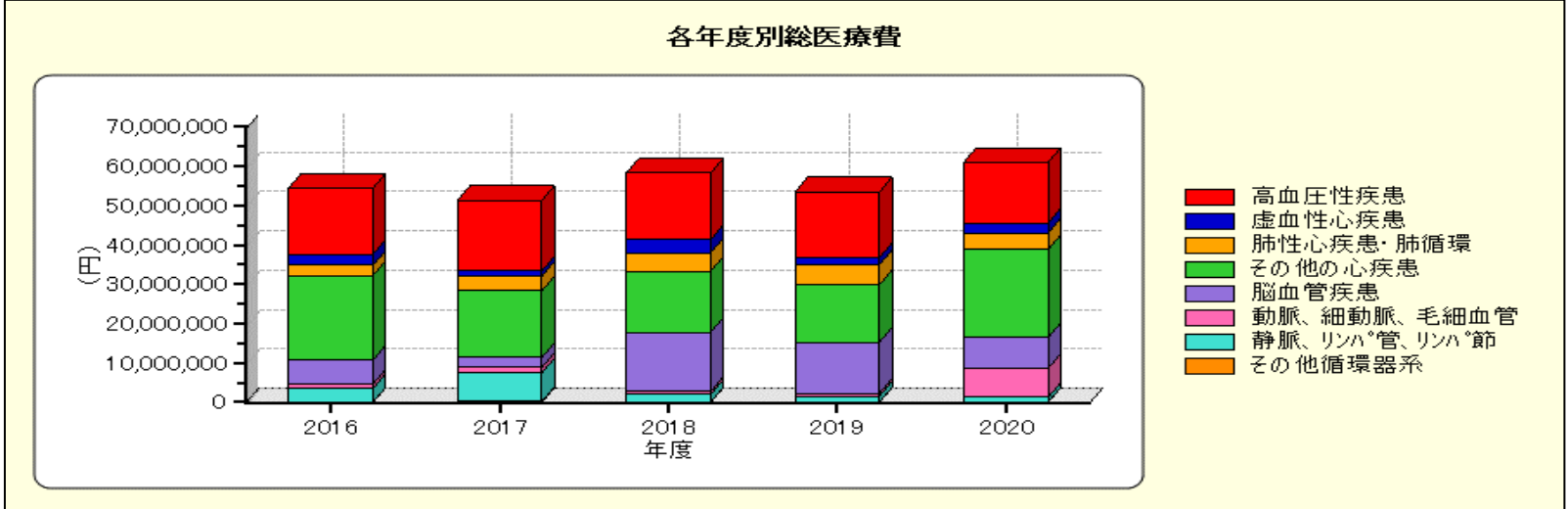




被保険者の生活習慣病 医療費推移グラフ



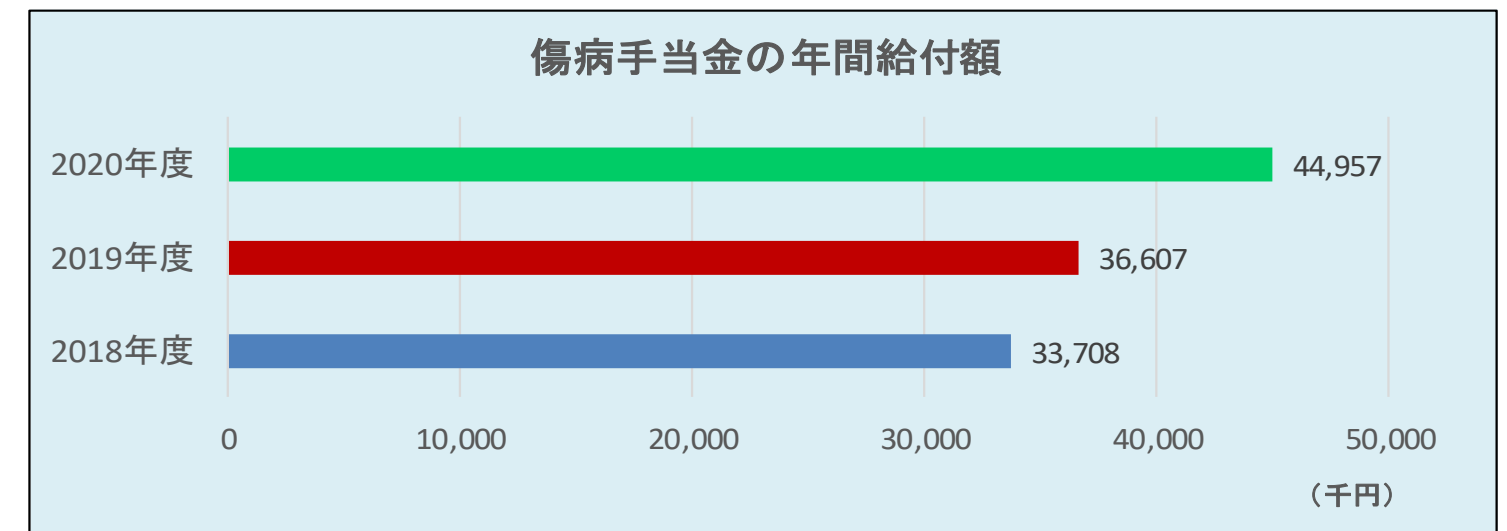
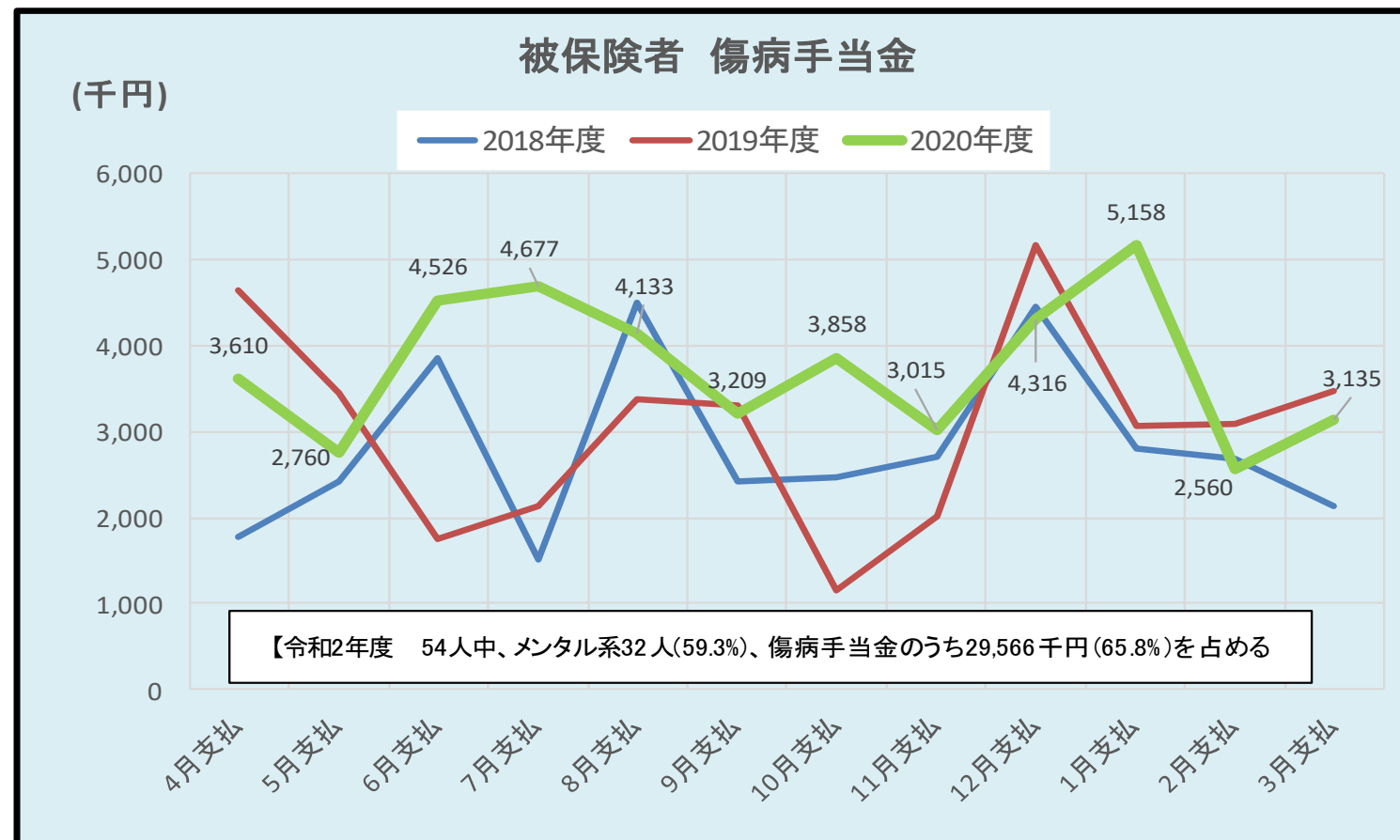
疾患名	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
糖尿病	13,514,350	15,409,030	16,530,730	16,253,360	17,360,930
(再掲)腎障害	31,180	28,300	22,820	14,530	12,320
(再掲)網膜症	46,410	51,310	100,400	821,890	377,230
(再掲)神経障害	95,420	223,260	170,030	122,320	38,730
(再掲)インスリン治療	5,060,740	6,680,430	5,139,690	5,279,820	5,813,240
脳血管疾患	856,170	865,370	429,070	2,341,490	1,009,690
虚血性心疾患	1,780,150	763,530	1,938,740	871,150	1,910,390
動脈閉塞	0	0	0	0	0
高血圧症	16,572,070	17,782,580	15,804,410	15,674,620	14,713,310
高尿酸血症	872,270	986,370	992,040	1,041,730	1,074,790
高脂血症	8,666,870	9,366,040	9,025,610	9,267,720	10,287,310
肝機能障害	177,490	268,520	404,090	330,290	435,330
高血圧性腎臓障害	1,120	0	600	16,070	0
人工透析	8,530,710	10,235,360	6,890,860	7,063,320	7,817,530
(再掲)糖尿病	1,379,260	1,488,610	542,760	623,030	928,670
(再掲)高血圧症	239,870	186,390	1,083,060	686,870	734,420



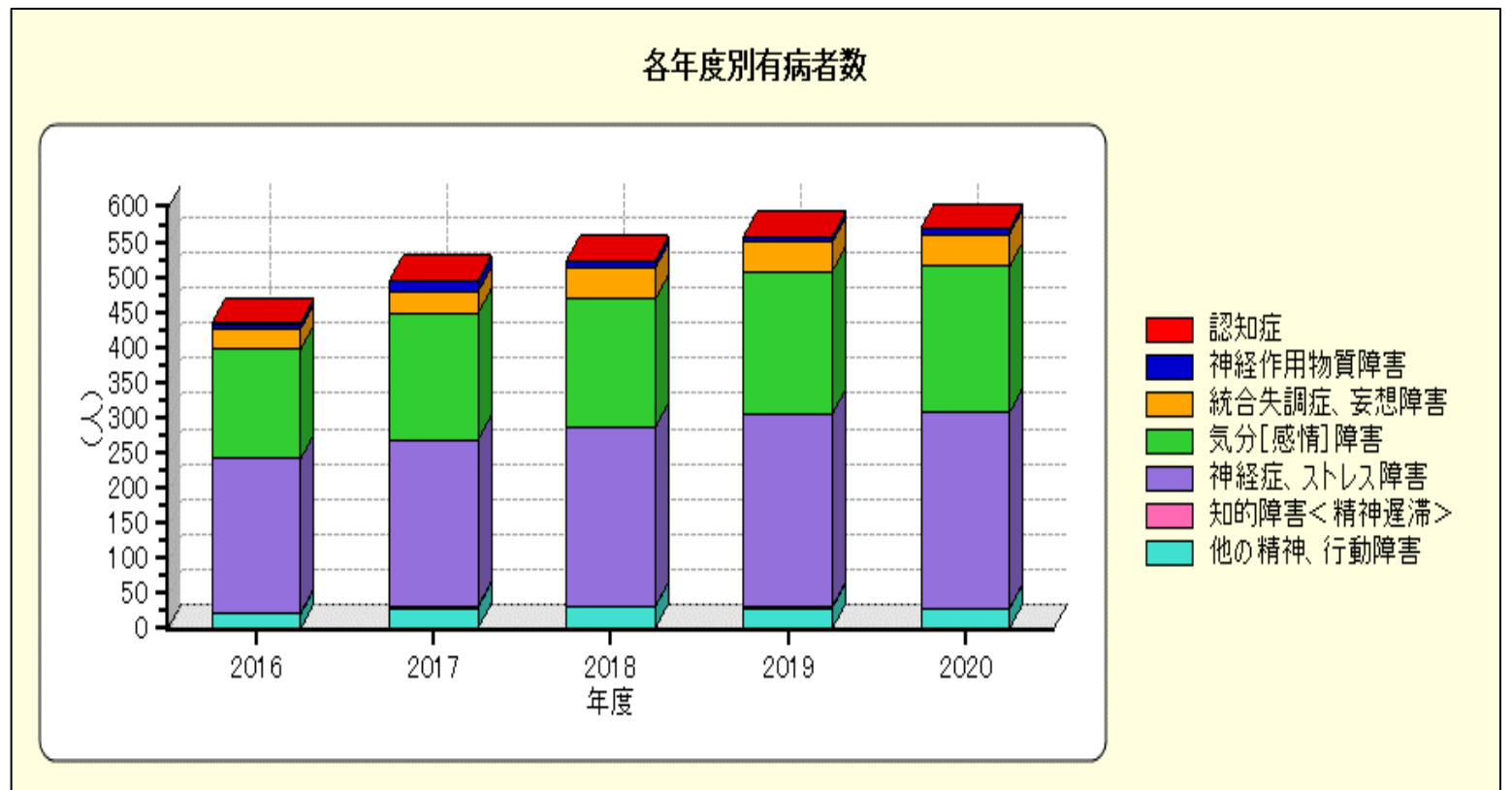
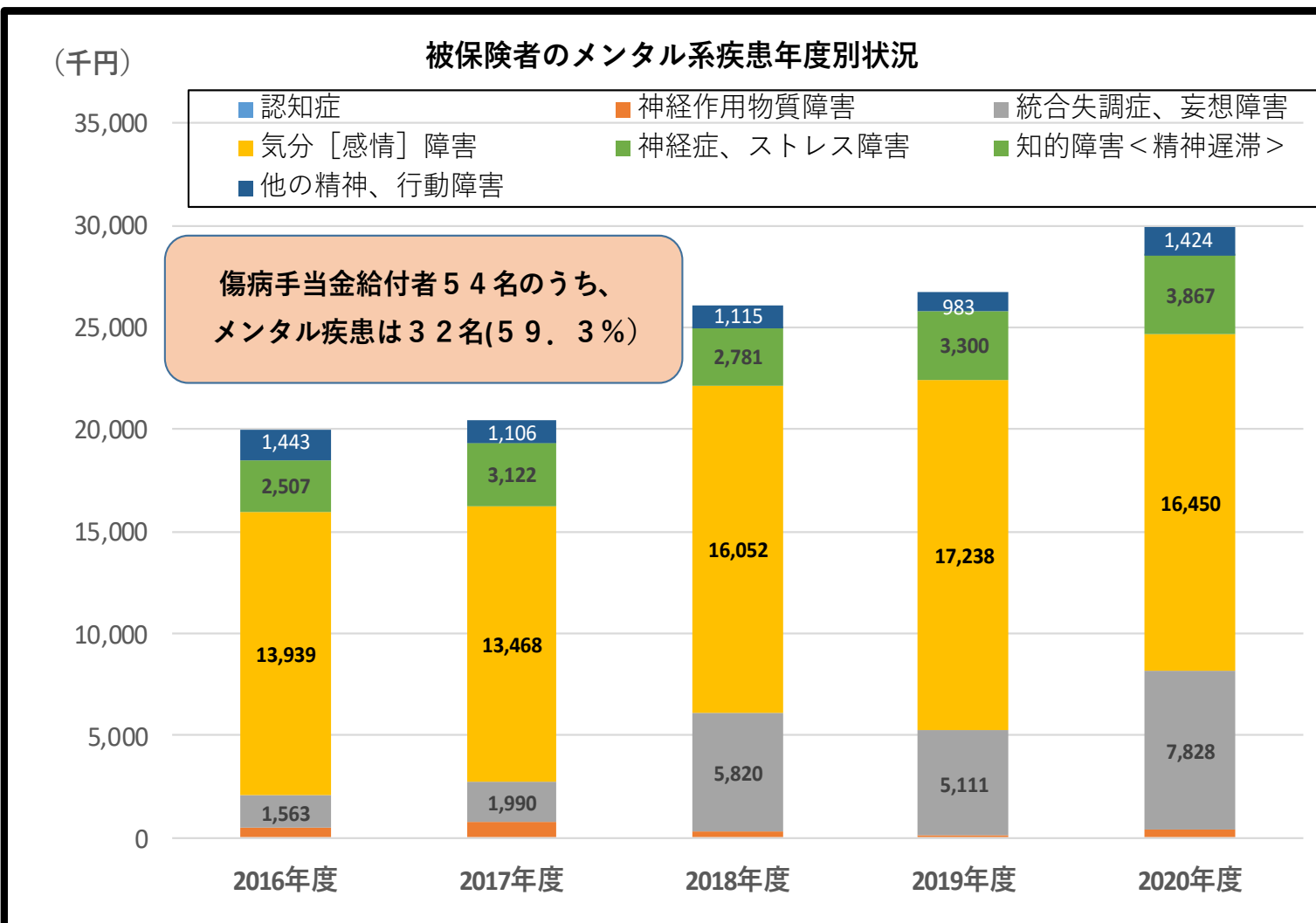
疾患名	2016	2017	2018	2019	2020
高血圧性疾患	16,863,630	17,970,240	16,904,480	16,673,640	15,451,640
虚血性心疾患	2,855,720	1,315,240	3,354,660	1,849,130	2,501,860
肺性心疾患・肺循環	2,591,110	3,692,040	4,706,780	5,081,190	4,224,340
その他の心疾患	21,416,580	16,965,320	15,531,860	14,599,340	22,369,830
脳血管疾患	6,128,750	2,520,550	15,039,260	12,995,860	7,866,360
動脈、細動脈、毛細血管	1,106,540	1,385,170	777,300	735,390	7,334,520
静脈、リンパ管、リンパ節	3,485,840	7,301,850	1,908,870	1,490,670	1,261,280
その他循環器系	98,310	222,400	78,950	50,740	3,720

■ 傷病手当金の給付状況

図表・ウ



レセプト情報<[メンタル系疾患 有病者数・医療費推移] 有病者数グラフ>



[メンタル系疾患 有病者数] (人)

疾患名	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
認知症	0	0	0	0	0
神経作用物質障害	9	17	11	9	8
統合失調症、妄想障害	29	30	44	41	46
気分[感情]障害	156	180	182	203	208
神経症、ストレス障害	219	237	255	274	278
知的障害<精神遅滞>	0	2	1	0	1
他の精神、行動障害	22	29	30	31	28

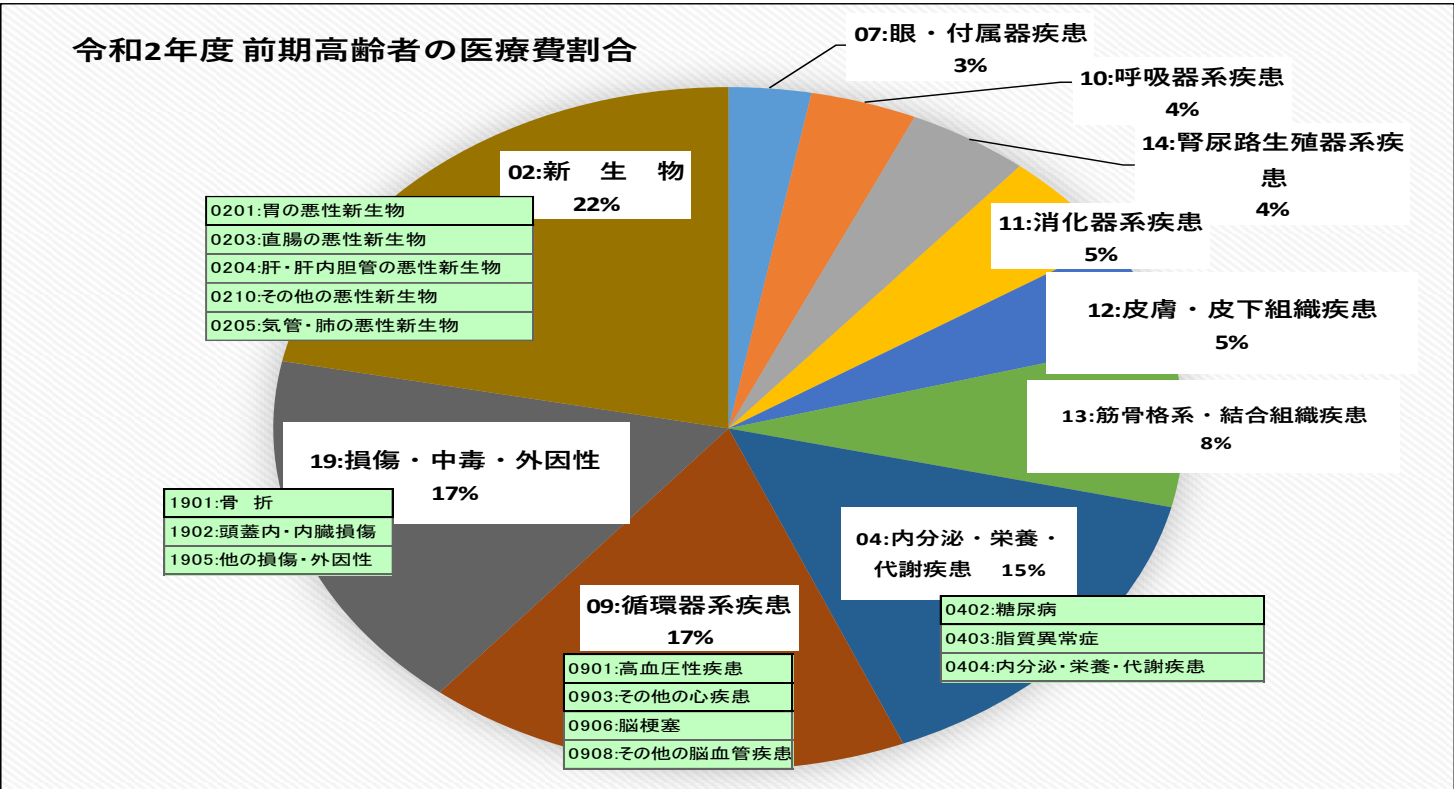
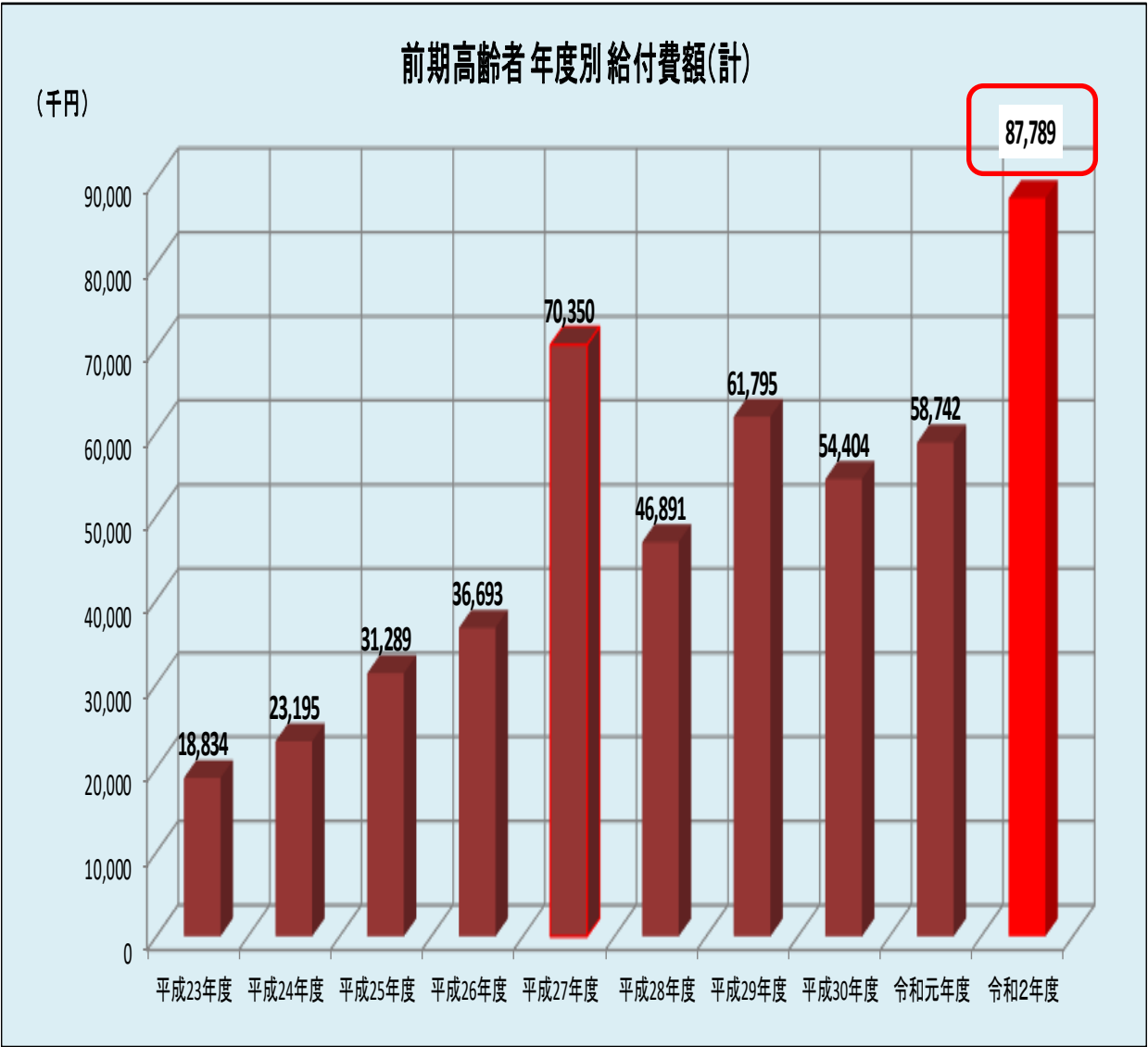
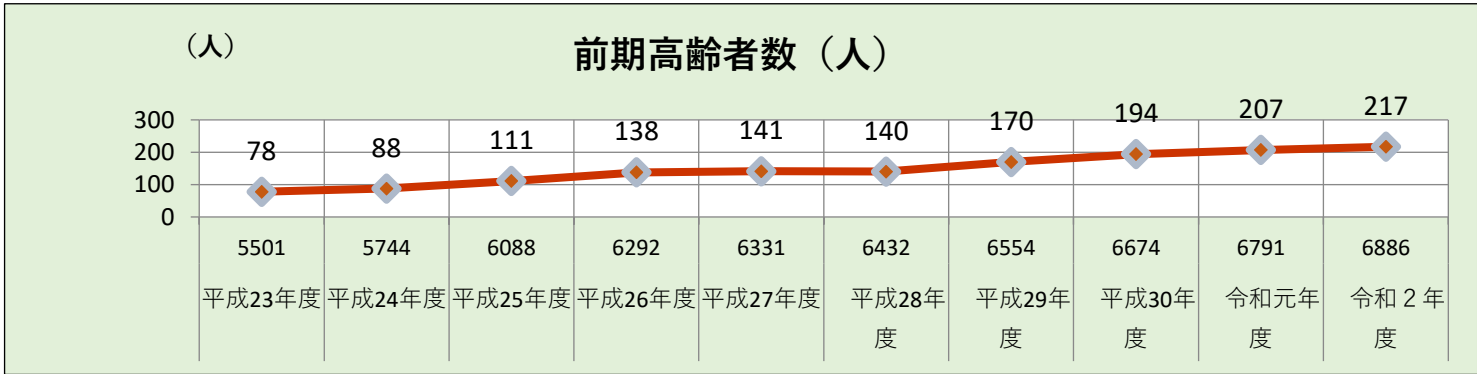
前期高齢者医療費等の状況

加入者数・前期高齢者数(単位:人) 給付費額「現物給付額・現金給付額」(単位:円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
加入者数	5,501	5,744	6,088	6,292	6,331	6,432	6,554	6,674	6,791	6,886
前期高齢者数	78	88	111	138	141	140	170	194	207	217
現物給付額	18,714,681	23,031,123	31,112,263	36,274,612	69,389,217	45,957,582	61,181,650	53,142,871	57,984,717	85,681,760
現金給付額	119,097	163,581	176,280	418,105	961,274	933,589	613,726	1,260,812	756,881	2,106,831
給付費額(計)	18,833,778	23,194,704	31,288,543	36,692,717	70,350,491	46,891,171	61,795,376	54,403,683	58,741,598	87,788,591
前期・1人当たり医療費	241,459	263,576	281,879	265,889	498,940	334,937	363,502	280,431	283,776	404,556

図表・工

令和2年度 前期高齢者(65歳以上75歳未満)			
(単位:人)	男	女	計
被保険者	71	76	147
被扶養者	11	59	70
計	82	135	217
前期高齢者(被保険者)			
(単位:人)	男	女	計
医療法人	36	35	71
社福法人	27	31	58
稲生会・株式	1	2	3
任継	7	8	15
計	71	76	147
前期高齢者(被扶養者)			
(単位:人)	男	女	計
医療法人	5	36	41
社福法人	2	19	21
稲生会・株式	0	0	0
任継	4	4	8
計	11	59	70

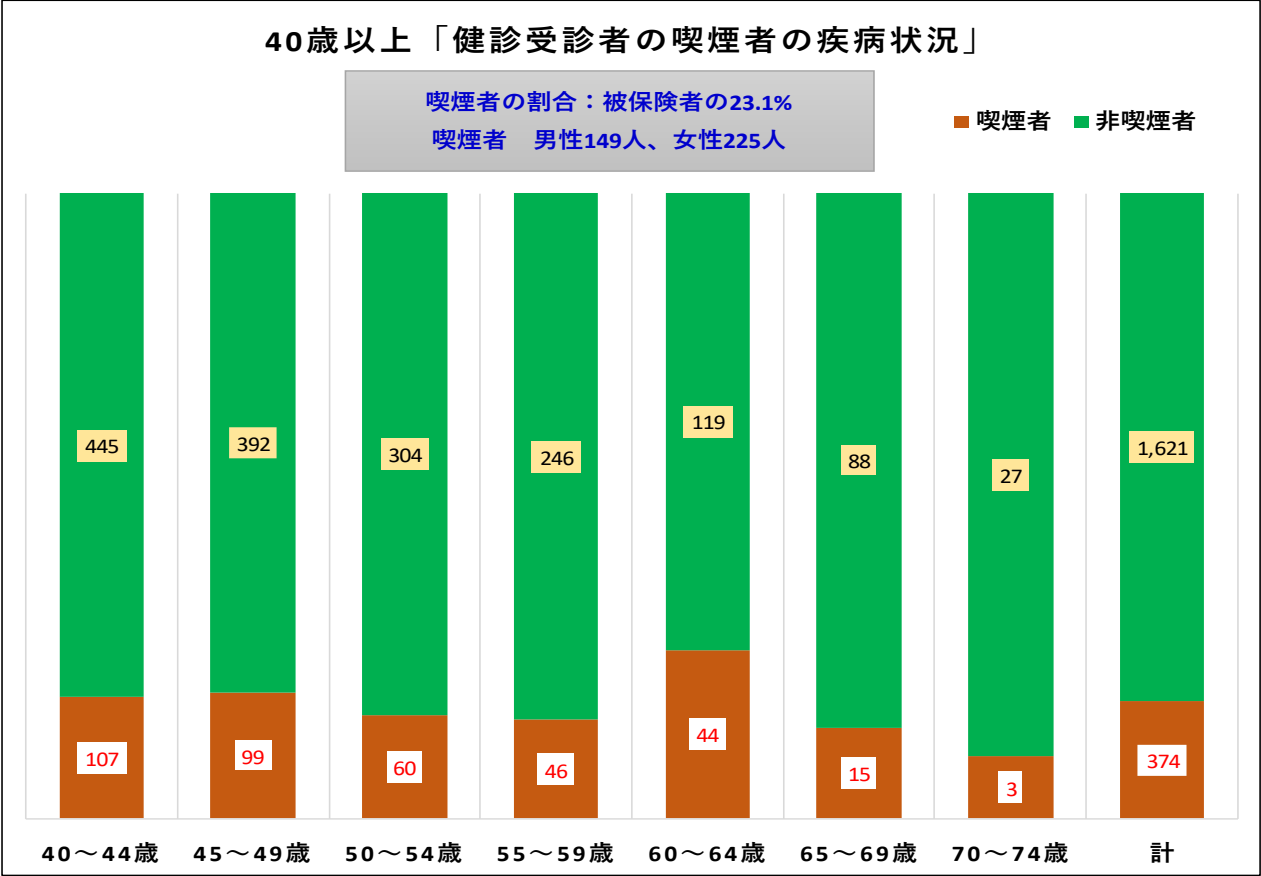


- 前期高齢者納付金＝自組合の前期医療費×全国の前期高齢者加入率／自組合の前期高齢者加入率（当年度分の概算納付金の算出には前々年度の数値を用いる）
- 自組合の前期高齢者医療費の変動により乱高下するリスクあり（前期高齢者納付金には公費が投入されていない）

4 0歳以上の健診受診者を対象とした「喫煙者と非喫煙者」の医療費比較

被扶養者への呼吸器系疾患予防および啓発

図表・オ



[喫煙者・非喫煙者の医療費比較] 疾病グラフ

	疾病	総医療費(円)		1人当たりの医療費(円)	
		喫煙	非喫煙	喫煙	非喫煙
1	生活習慣病	11,075,960	38,110,380	73,840	62,069
2	悪性新生物	8,618,000	25,079,140	123,114	67,236
3	循環器系疾患	9,433,600	34,461,460	79,946	73,012
4	季節性疾患	519,860	6,312,250	9,120	16,655
5	メンタル系疾患	3,590,360	7,351,580	89,759	50,701

[喫煙者・非喫煙者の医療費比較] 健診リスク人数

	健診リスク	割合(%)	
		喫煙	非喫煙
1	肥満	38.0	29.8
2	高血圧	39.8	33.2
3	高脂血	28.3	19.1
4	高血糖	25.7	17.8

レセプトデータのリスク条件

[腹囲]内臓脂肪面積≥	100
[腹囲]男性≥	85
[腹囲]女性≥	90
[腹囲]BMI≥	25
[血糖]空腹時血糖≥	100
[血糖]HbA1c(NGSP)≥	5.6
[血糖]服薬	服薬あり
[血糖]随時血糖≥	100
[血圧]服薬	服薬あり
[脂質]中性脂肪≥	150
[脂質]HDLコレステロール≥	40
[脂質]服薬	服薬あり

家族で取り組む「かぜ&むし歯」予防
「つよい子になるぞ!キャンペーン」2020年度実施結果

■目的 手洗い・うがい・歯みがきの習慣をつけて、かぜ&むし歯を予防していただく。
■対象者 3歳～10歳までのお子さん(健康保険の被扶養者)
■実施方法 封書にはお子さん用のカレンダーとシールが同封されていて、10月～12月までの3ヶ月間、手洗い・うがい・歯みがきができたとシールを貼って、家族でコミュニケーションをとっていただく。
■景品の進呈 アンケートはがきに回答したお子さんに景品(子供用歯みがきセット・バスタオル・ハンドソープ)を発送する。

対象者数	アンケート回答者数	回答率
557	53	9.52%

2020年度 つよい子になるぞ!キャンペーン対象者

男 女 計

3歳 4歳 5歳 6歳 7歳 8歳 9歳 10歳

【アンケート回答者から寄せられた情報】

- ・ごほうびシールを使って楽しく実施することができていました。また、ぜひこのようなキャンペーンをやして下さい。
- ・今回のキャンペーンで、より気をつけて忘れずにするようになりました。
- ・キャンペーンが終わったあとも、シール貼らないの?と言っていて、子どもたちの習慣づけに役立ちました。
- ・シールは子どもの興味をひきやすかったです。
- ・プレゼントが楽しみできちんとやってみました。
- ・日頃から手洗い・うがい・歯みがきについては、一緒に親もやりながら指導をしていますが、自発的に取り組むようになったと思います。また同様のキャンペーンが開催されるのであれば是非参加したいと思います。
- ・自分から歯みがきする日が増えました。
- ・このようなキャンペーンが定期的にあるとありがたいです。
- ・シールを貼るのが楽しかったようで習慣づけることができて良かったです。
- ・子供は楽しくできていました。ありがとうございました。
- ・シールがかわいいです。またやりたいです!!ありがとうございます。
- ・カレンダーにシールを貼ることでいつも以上に楽しんで行う姿が見られました。とても良かったです。

後発医薬品使用割合

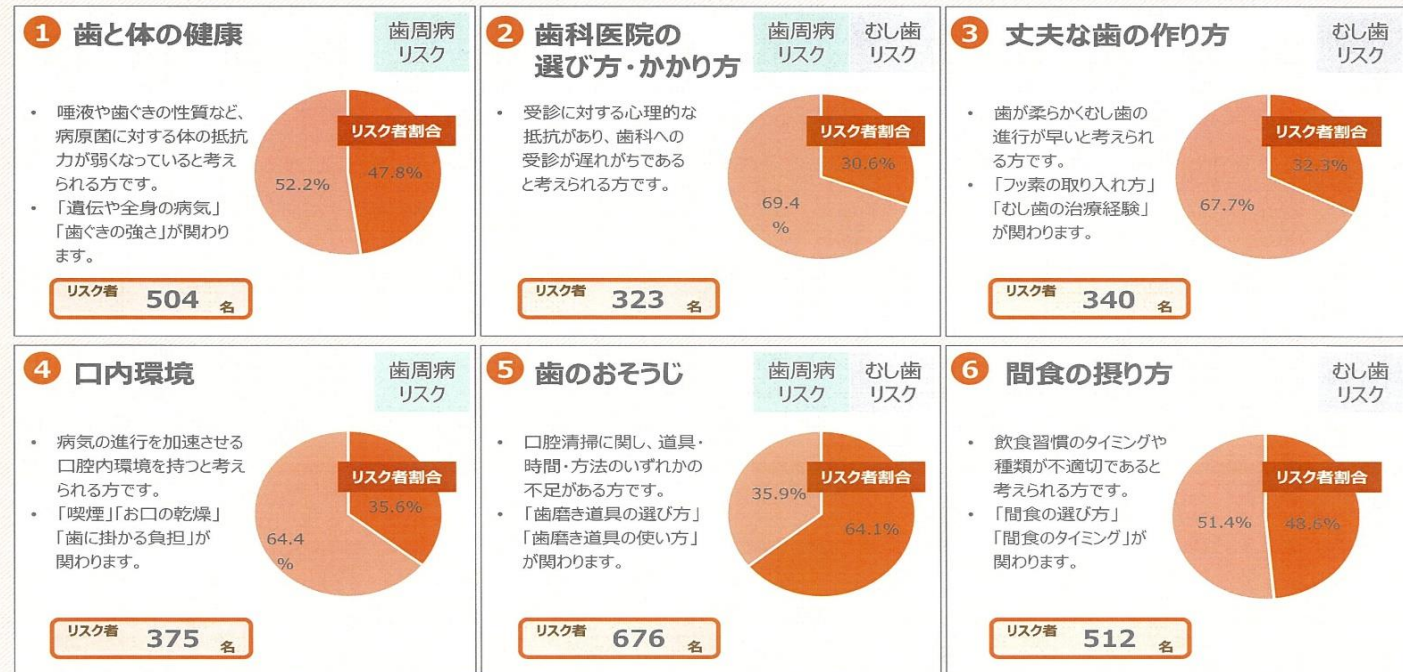
2020年度 漢仁会健康保険組合 後発医薬品の使用率									
年齢階層	合計			被保険者			被扶養者		
	件数	使用割合	薬剤費割合	件数	使用割合	薬剤費割合	件数	使用割合	薬剤費割合
0～4歳	164	88.89%	69.02%	—	—	—	164	88.89%	69.02%
5～9歳	106	78.23%	48.18%	—	—	—	106	78.23%	48.18%
10～14歳	42	90.77%	88.67%	—	—	—	42	90.77%	88.67%
15～19歳	27	62.26%	44.96%	1	100.00%	100.00%	26	60.39%	44.14%
20～24歳	91	87.03%	61.49%	74	86.61%	57.84%	17	89.60%	86.41%
25～29歳	164	84.63%	78.39%	160	90.56%	82.62%	4	21.48%	12.99%
30～34歳	144	88.37%	68.73%	132	87.79%	68.13%	12	96.84%	88.72%
35～39歳	122	88.80%	65.41%	110	88.29%	62.08%	12	93.46%	93.99%
40～44歳	152	86.23%	71.26%	133	95.23%	80.40%	19	48.20%	34.83%
45～49歳	128	90.02%	56.32%	115	91.71%	82.40%	13	74.70%	8.82%
50～54歳	119	85.76%	63.54%	108	86.32%	62.66%	11	77.56%	71.80%
55～59歳	100	81.93%	55.68%	88	84.37%	60.94%	12	65.99%	36.46%
60～64歳	85	86.83%	75.46%	71	86.48%	76.11%	14	90.08%	70.11%
65～69歳	40	78.37%	60.62%	25	76.84%	55.52%	15	80.74%	71.70%
70～74歳	28	80.49%	22.24%	12	87.73%	38.36%	16	75.09%	15.77%
75歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	1,512	85.72%	61.74%	1,029	88.43%	69.34%	483	80.05%	46.69%

■ 歯科予防型保健事業プログラム「デンタルIQチェック」実施結果による歯科医療費分析と歯科予防対策

図表・カ

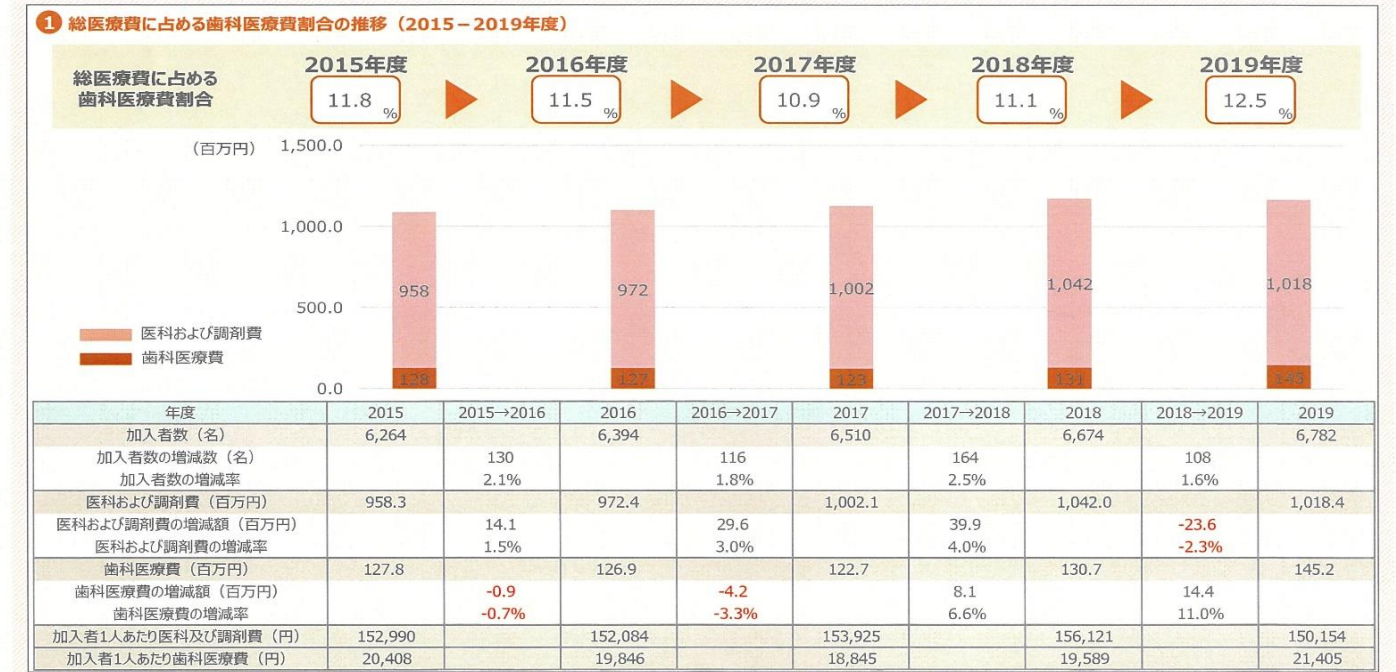
デンタルIQチェックによる各リスクの状況

デンタルIQチェックの結果から判定した、歯周病とむし歯の発症に関わる6項目のリスクの状況は以下のとおりです



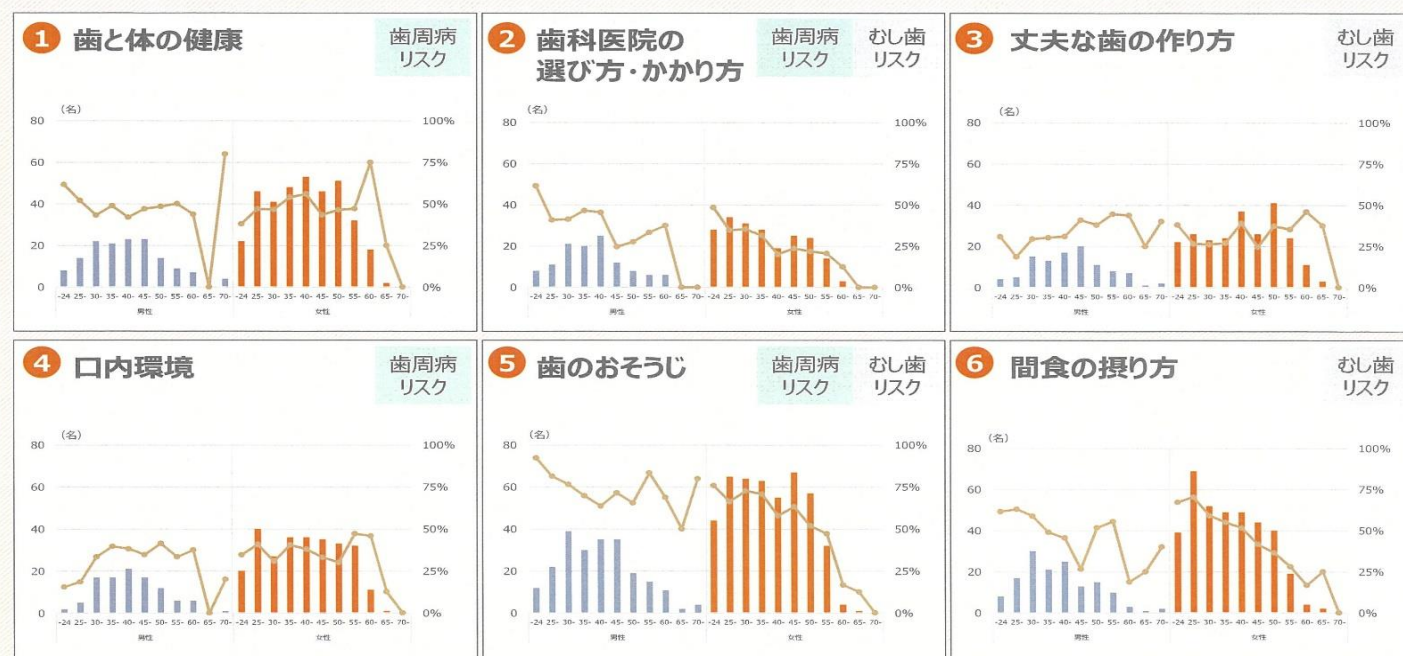
総医療費に占める歯科医療費の状況

総医療費に占める歯科医療費の割合の増減を示しています。歯科医療費は総医療費の12.5%を占めています。また、加入者1人あたりの歯科医療費は、加入者1人あたりの医科及び調剤費の約7分の1であることがわかります



デンタルIQチェックによる各リスクの状況 (性・年齢階級別)

6項目のリスク保有者の性年齢階級別のリスク者の人数と、性年齢階級別の回答者に占めるリスク者割合を示しています



■ 歯科医療費の状況及び歯科予防対策について

- ・今年度初めて実施した「デンタルIQチェック」は、全被保険者を対象としたが問診の有効回答率23.8%の結果であった。
- ・次回は回答率向上のためヘルスポイントを見直したり、事業主への働きかけを強化する。

- ・他の疾病と違い、歯科受診は痛くならないと受診しない傾向がある。そのため口腔ケアや歯科予防に関心や行動変容が起きていない傾向があり、歯科医療費の90.5%が治療費である。
- ・歯科に関わる全身疾患は、糖尿病、心疾患等の重症化リスクもあるため、生活習慣病の予防が関係していることを被保険者に理解してもらうことが必要である。

※ 歯科分析結果による歯科予防および受診勧奨

- ・歯科未受診者への受診勧奨64名にハガキ発送、糖尿病＋心疾患高リスク者137名に手紙による受診勧奨を実施した。
- ・歯科治療費が管理治療費に転換されると、医療費が減少すると同時に被保険者の健康維持及び労働生産性も向上する対策となる。

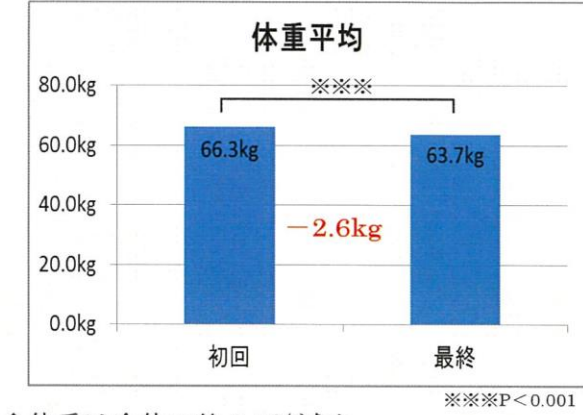
図表・キ①

2020年度 健康増進（ダイエット）プログラム報告書

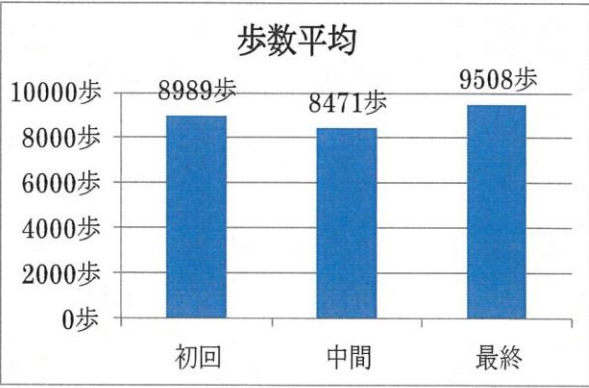
企業名	浜仁会健康保険組合「健康増進（ダイエット）プログラム」
場 所	浜仁会円山クリニック 地下フィットネスルーム
日程及び参加者数等	1クール目 初回：2020年7月28日（火）、29日（水）、30日（木）18：30～20：00 男性4名、女性16名【計20計】（リタイヤ3名） 1回目セミナー：2020年8月27日（木）18：30～20：00 2回目セミナー：2020年9月24日（木）18：30～20：00 最終：2020年10月28日（水）、29日（木）18：30～20：00 ※目標達成者：13名（フィットネス会員3名申込み） 2クール目 初回：2020年11月24日（火）、25日（水）、26日（木）18：30～20：00 男性2名、女性13名【計15名】（新型コロナウイルス感染症予防により3名キャンセル） 1回目セミナー：2020年12月22日（火）18：30～20：00 2回目セミナー：2021年1月28日（木）18：30～20：00 最終：2021年2月24日（水）、25日（木）18：30～20：00 ※目標達成者：10名
事業開始～募集状況	1クール目：浜仁会健康保険組合よりK@NET「グループのお知らせ」にアップ。 円山クリニックにて6月19日から7月11日を募集期間として受付したが、 問合せや募集が多く募集締め切りの案内を行った。 2クール目：浜仁会健康保険組合よりK@NET「グループのお知らせ」にアップ。円山クリ ニックにて10月20日から31日を募集期間として受付。 今回は定員20名を超えた場合は抽選にて参加者を確定する方法を取ったが、 コロナ禍の影響もあり期限までに定員に満たず15名に留まった。

プログラムの流れ	初回：身体測定（身長、体重、体脂肪率、腹囲） 体力測定（心肺持久力、筋力、筋持久力、柔軟性、平衡性、敏捷性、瞬発力） 目標設定（初回体重よりマイナス3%） 歩数・体重記録（毎日記録し毎月提出）<u>Fitbiの活用も有効であった</u> 栄養・運動講話 1回目セミナー：身体測定、栄養・運動講話、運動実践 2回目セミナー：身体測定、栄養・運動講話、運動実践 最終：身体測定、体力測定、個人ヒヤリング
----------	---

●1クール目結果（男性4名、女性16名）



↑体重は全体で約3.9%減少。



↑目標歩数男性9000歩、女性8500歩と設定。
統計上有意な差は見られなかった。（休日の歩行習慣化）

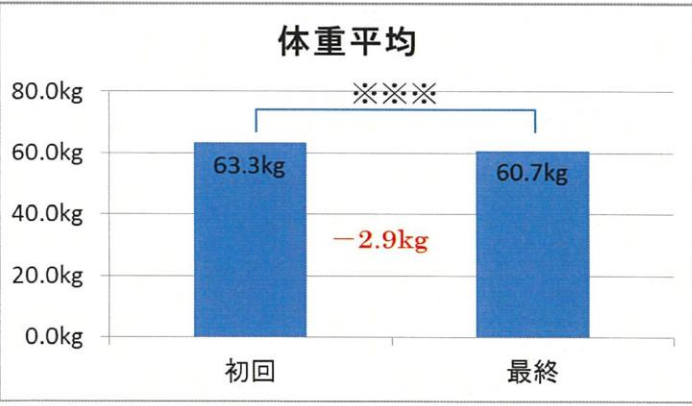
●1クール目結果 体力測定

測定項目	男性（n=4）		女性（n=16）	
	初回	最終	初回	最終
心肺持久力（ml/kg/分）	34.3（±3.0）	36.8（±4.9）	27.2（±3.9）	36.8（±4.1）※
筋力（kg）	46.2（±6.8）	45.6（±6.2）	28.3（±4.2）	28.3（±3.7）
筋持久力（回）	19.0（±4.5）	22.0（±2.8）	11.9（±5.8）	13.8（±5.0）※
柔軟性（cm）	0.1（±14.0）	6.4（±6.1）	6.3（±8.3）	7.0（±8.4）
平衡性（秒）	14.7（±9.6）	27.7（±22.5）	22.8（±16.9）	39.4（±29.8）※
敏捷性（秒）	0.335（±0.009）	0.348（±0.029）	0.395（±0.068）	0.353（±0.040）
瞬発力（cm）	45.7（±4.5）	51.0（±9.3）	32.2（±7.7）	34.1（±6.4）※

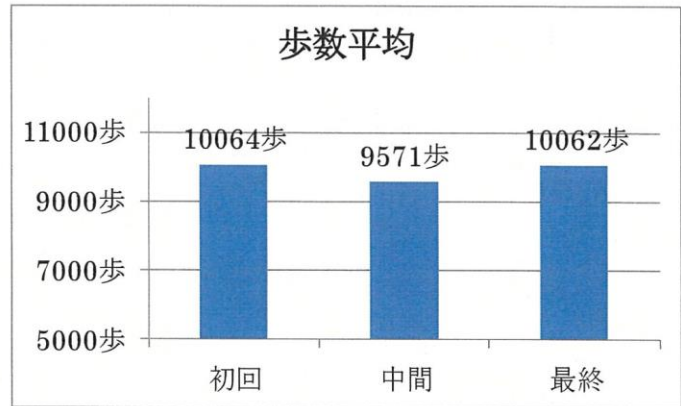
↑男女共にほとんどの種目で改善、向上効果が見られた。

※P<0.05

●2クール目結果（男性2名、女性13名）



↑体重は全体で約4.1%減少。



↑初回時と変化は見られなかった。
（看護師として勤務している方が多く、日々歩数は多いが、休日の運動習慣が向上された。）

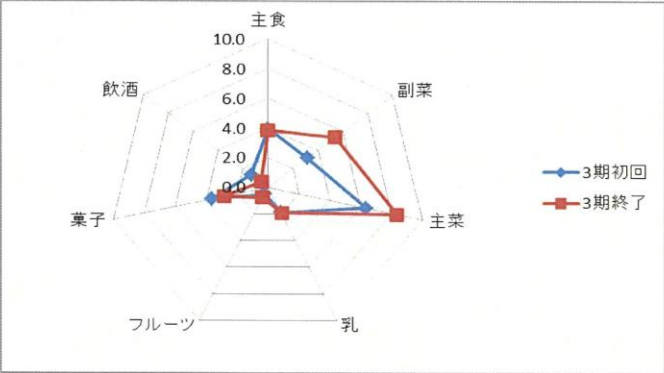
● 2クール目結果 体力測定

測定項目	男性 (n=2)		女性 (n=10)	
	初回	最終	初回	最終
心肺持久力 (ml/kg /分)	30.3 (±1.4)	34.5 (±2.2)	30.2 (±5.5)	32.8 (±6.9)
筋力 (kg)	50.0 (±5.7)	50.6 (±6.0)	25.7 (±2.6)	26.2 (±2.3) ※
筋持久力 (回)	20.0 (±2.0)	22.5 (±2.5)	9.4 (±6.6)	12.9 (±4.4) ※
柔軟性 (cm)	-2.0 (±10.1)	4.5 (±6.9)	3.4 (±7.3)	5.4 (±6.7) ※
平衡性 (秒)	22.5 (±15.5)	91.5 (±60.5)	22.9 (±12.3)	16.8 (±12.6)
敏捷性 (秒)	0.382 (±0.066)	0.310 (±0.007)	0.403 (±0.061)	0.396 (±0.055)
瞬発力 (cm)	35.5 (±0.5)	41.0 (±1.0) ※	29.9 (±5.9)	30.3 (±4.3)

※P<0.05

↑男性は全項で改善・向上効果が見られた。女性も平衡性以外で同様の効果が見られた。

● 1クール目 食事バランス診断

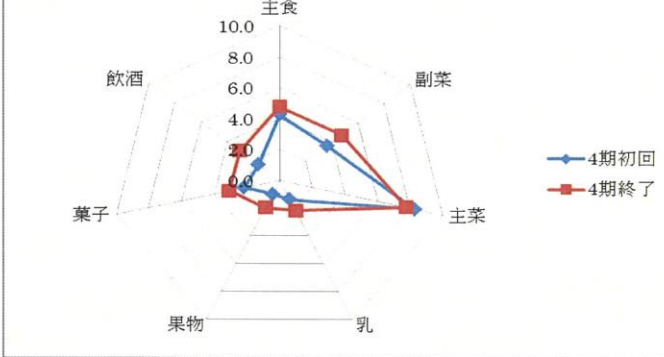


↑副菜（野菜・きのこ類）が増加し、菓子類、飲酒が減少。

項目	n=18人		p
	初回	最終	
主食(sv)	3.9±1.1	3.8±1.3	
副菜(sv)	3.2±1.3	5.4±2.1	※※
主菜(sv)	6.3±1.4	8.3±2.4	※
乳製品(sv)	1.9±1.3	1.9±1.2	
果物(sv)	0.6±0.8	0.8±0.8	
お菓子	3.6±1.9	2.8±1.7	
お酒	1.3±1.4	0.6±0.7	

※p<0.05 ※※p<0.001

● 2クール目 食事バランス診断



↑副菜が増加。運動を継続することによって、プログラムの後半では飲酒が減となり、副菜摂取が増加され、本人の意識向上がみられた。

項目	n=13人		p
	初回	最終	
主食(sv)	3.9±1.0	3.7±0.7	
副菜(sv)	3.8±1.6	5.7±1.9	※
主菜(sv)	7.6±2.9	8.9±2.8	
乳製品(sv)	1.4±1.3	2.4±1.5	
果物(sv)	0.9±0.7	0.9±0.7	
お菓子	2.1±1.2	1.8±0.9	
お酒	2.0±2.0	1.3±1.7	

※p<0.05

● まとめ

- 事業目的を健康維持増進にむけたダイエットとし、全参加者統一目標として、体重3%減らすようプログラミングとした。
- 両クール共に定員は20名、被保険者であれば誰でも参加可能とした。申込み方法は、1クール目が問い合わせ先着順とし定員になり受付を終了とし、2クール目は抽選とした（定員を超えた場合）。申込み開始直後から問い合わせが多い状況であったが、2クール目に関してはコロナウィルス感染拡大の影響から1クール目の問い合わせ状況と比較するとやや低調であった。
- 効果は、1クール目はリタイアされた方が3名いたが、17名中16名が初回より体重減少し、そのうち13名が目標の体重3%減量を達成した。全員の平均値は66.3 kgから63.7 kgと2.6 kg（約3.9%）減り統計上でも有意な減少となった。
- 1クール目の活動量把握として、毎日の歩数調査を毎月行ったが、歩数は右肩上がりではあったが、統計上では有意な差とならなかった。
- 1クール目の体力測定は、男性の筋力は低下したがそれ以外の項目は改善した。特に女性の心肺持久力、筋持久力、平衡性、柔軟性、敏捷性、瞬発力は有意な改善であった。
- 2クール目の効果は、リタイアされた方が3名いたが、12名中11名が初回より体重減少し、うち10名が目標の体重3%減量を達成した。全員の平均値は63.3 kgから60.7 kgと2.6 kg（約4.1%）減り、統計上でも有意な減少となった。
- 2クール目の活動量把握として、毎日の歩数調査を毎月行ったが、元々仕事上の活動量が高い方が多かったこともあり歩数には大きな変化は見られなかった。
- 2クール目の体力測定は、男性は全項目で改善し、女性は平衡性以外で改善が見られた。特に男性は瞬発力、女性は筋力、筋持久力、柔軟性が有意な改善であった。
- 食事面では1クールも2クールも副菜が増加して食事バランスが改善されていました。また嗜好品については菓子類も飲酒減っていました。
- 食事の前に水分補給する習慣や野菜から先に食べるなど改善がみられました。
- アンケート結果では、1、2クール共にトレーニング実践、セミナー参加の満足度が高かった。多くの方がダイエット効果を高める為の情報提供を求めている事をあらためて確認することが出来た。
- 参加モチベーションアップとして、昨年度から引き続き事業期間中の円山クリニックフィットネス利用無料とダイエット目標達成による3ヶ月間無料期間延長を特典とした。
- フィットネス利用時には参加者へ運動・食事面、または体重やモチベーションが停滞気味の方へのサポート体制を強化したことが事業成功の要因の1つであったと考えられる。

● 指導風景



STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ, ウ, オ, カ, キ	- 総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 - 被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。	➡	- がんのリスクを減らせる生活習慣（喫煙・飲酒・食事・運動等）予防情報を配信する。 - がんについてのセミナー等を開催して、健康意識を被保険者に働きかける。 - 被扶養者の特定健診には、健康情報を配信しながら継続的な受診勧奨が必要である。	✓
2	ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	- 医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 - 循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 - 筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 - 内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 - 生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。	➡	- 被保険者においては、事業所と健保組合が協働して、メタボ対策をはじめとする生活習慣病予防対策を強化する。 - がん検診受診率の向上及び再検査等のフォロー体制も各事業所で動き出したことにより、検診後の再検査等も実施され、良性新生物割合が多くなってきている。 ※レセプトチェック等により、高額頻回受診や多重服薬者を確認して、対象者へは医療費適正化のお願い通知を発送し経過観察をする。 ※不適切な受診等が継続している場合には健康保険法による給付制限を実施する。 「けんぽだより」等の広報誌で医療費適正化の啓蒙を図る。	✓
3	イ, ウ, エ, オ	- メンタル系疾患は、気分[感情]障害、ストレス障害の疾患が多い。 - 後発医薬品の使用割合においては、令和元年度から80%超の使用割合となっている。	➡	- 産業保健支援室「まめやか相談室」の活動支援を実施する。 - 後発医薬品使用の啓蒙活動は、リーフレットやポスター等の配布等による啓蒙を実施する。	✓
4	ア, イ, エ, オ, カ	医療費のうち、歯周病関連の歯科医療費割合が毎年度約12%を占めている。	➡	全被保険者を対象として口腔ケア問診プログラムを実施し歯科の治療状況を把握し、「治療費用」から「管理費用」に転換するように活動を継続する。	✓

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	- 加入者構成は、被保険者のうち約70%が女性であり、平均年齢は39.45歳（男性40.06歳、女性39.19歳）である。 - 被扶養者の扶養率は0.46%で、平均年齢は19.22歳（男性12.16%、女性24.17歳）である。 - 複数の事業所を有しており、それぞれの規模、産業保健体制等に応じて、事業主の取り組み実態が異なっている。 - 生活習慣病医療費を分析して改善対策を検討する。	➡	- 女性のがん予防、早期発見及び早期治療の検診勧奨を啓発する。 40歳以上の被扶養者の総合健診受診勧奨の啓発を図る。 - 前期高齢者の医療費対策を図る。 - 湊仁会グループの健康経営活動の一環として、加入者にICT「PepUp」アプリ等を活用して、「健康、運動、栄養、休憩」のヘルスリテラシーの向上を図る。

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
-----	----	--	--------------

1

- ・年齢階層別の総合健診受診が被保険者に定着してきている。
- ・被扶養者の特定健診の受診率が伸び悩んでいる。
- ・複数の事業所とのコラボヘルス更に連携する必要がある。



- ・保健事業における参加者へのインセンティブを実施する。
- ・産業保健支援室にて、事業所と逦仁会グループの健診機関、健保組合が打ち合わせを実施し、コラボヘルス体制の構築を図っている。

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的

①「総合健診」の実施による特定健診及び特定保健指導については、事業主とのコラボヘルス体制により健診受診の向上を図る。

②加入者の意識向上を図り医療費を削減する。

③健診受診後の有所見者の事後指導体制を確立する。

事業全体の目標

①特定健診受診率90%以上、特定保健指導実施率60%以上を達成する。

②被扶養者の総合健診＋特定健診受診率60%以上を達成する。

③健診後の事後指導については100%勧奨を実施する。

事業の一覧

職場環境の整備	
特定保健指導事業	特定保健指導の実施率向上
疾病予防	年齢階層別被保険者の総合健診事業の効率的な運用
疾病予防	健診異常値放置者対策の受診勧奨事業
疾病予防	産業保健支援室「まめやか相談室」のメンタルヘルス活動支援
加入者への意識づけ	
特定健康診査事業	特定健診（被保険者及び被扶養者）の実績向上
保健指導宣伝	各種健康増進キャンペーンの実施
保健指導宣伝	歯周病予防及び禁煙対策
保健指導宣伝	「つよい子になるぞ！」キャンペーン
保健指導宣伝	後発医薬品の使用割合の増加
疾病予防	年代別男女別被保険者へのがん検診の補助
疾病予防	被扶養者・任意継続者のがん検診受診率向上
疾病予防	奥さま健診の受診率向上
体育奨励	健康増進（ダイエット）プログラム
個別の事業	

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者									
アウトプット指標													アウトカム指標			
職場環境の整備																
特定保健指導事業	1,2,4	既存(法定)	特定保健指導の実施率向上	母体企業	男女	35～74	基準該当者	3	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・健診当日の階層化による生活習慣病リスク者の面接を勧奨する。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,シ	・浜仁会円山クリニックとの契約により「総合健診健康サポート事業」を実施する。	3,244	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・生活習慣病の罹患率を減少させることにより、心疾患及び腎不全等の医療費を減少される。 ・加入者が健康で元気な生活を送ることができ、業務の効率化が図られる。	・総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。
特定保健指導「利用券」送付(【実績値】10.3% 【目標値】令和2年度：100%)・「利用券」の送付は、事業所担当者経由で100%対象者に配付する。													特定保健指導実施率(【実績値】11.9% 【目標値】令和2年度：63%)・特定保健指導の実施率を60%とする。			
疾病予防	3	既存	年齢階層別被保険者の総合健診事業の効率的な運用	母体企業	男女	35～74	被保険者	3	イ,ウ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	・各事業所の健診予定月毎に健診案内を配付し、受診予定者の補助金申請書により受診予定数及び補助額を把握する。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・浜仁会円山クリニックとの情報交換を実施する。	22,335	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・健診データの一元化により、年代別生活習慣病の予防及び改善を図る。	・総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。
健診案内及び受診勧奨(【実績値】100% 【目標値】令和2年度：100%)・「総合健診」の案内及び受診勧奨を事業所経由で100%実施する。													総合健診受診率(【実績値】93.4% 【目標値】令和2年度：100%)・全事業所の被保険者が「総合健診」を100%受診する。			
1,2,4,6	既存	健診異常値放置者対策の受診勧奨事業	母体企業	男女	18～74	被保険者	3	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・高血圧症、糖尿病のハイリスク者に脳ドック「受診券」を配付する。	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ケ,コ,シ	・浜仁会円山クリニックと契約し、組合補助で「脳ドック」を実施する。	4,180	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・総合健診等の健診結果「要治療・要精査」判定の被保険者の病院受診をさせ、病気の予防及び早期発見、早期治療を図る。 ・医療費の抑制と労働者の安全、安心を図る。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では(良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%)となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費(その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等)、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は(関節症2.17%、椎間板障害1.16%)となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。	
健診結果「要治療・要精査判定者」把握(【実績値】319人 【目標値】令和2年度：100人)・ハイリスク対象者100名の対象者に「受診券」を配付する。													対象者への受診勧奨実施率(【実績値】50.0% 【目標値】令和2年度：100%)・ハイリスク対象者100名の補助予算のうち、全員が脳ドックを実施する。			
1,2,5	既存	産業保健支援室「まめやか相談室」のメンタルヘルス活動支援	全て	男女	18～74	加入者全員	3	イ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	・毎月1回実施する「産業保健支援室会議」で状況報告を確認する。	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・「産業保健支援室」の保健師等の交通費、研修費等を必要に応じ補助する。	200	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・働きやすい職場環境への改善。 ・メンタル疾患の減少による業務効率の向上と医療費の減少。	・メンタル系疾患は、気分[感情]障害、ストレス障害の疾患が多い。 ・後発医薬品の使用割合においては、令和元年度から80%超の使用割合となっている。	
相談室利用延べ件数(【実績値】501人 【目標値】令和2年度：490人)・「まめやか相談室」の延べ利用者数を550人に増加させる。													傷病手当金受給者数(【実績値】110.0% 【目標値】令和2年度：112.0%)・精神疾患による傷病手当金受給者数を年間2%減少させる。			
加入者への意識づけ																
特定健康診査事業	1,2,3,4,5,6	既存	特定健診(被保険者及び被扶養者)の実績向上	全て	男女	40～74	被保険者,被扶養者,任意継続者	3	イ,オ,ク,ケ,コ,シ	・被保険者は年齢階層別の総合健診コースの中で特定健診を実施する。 ・被扶養者は特定健診の基本項目のコースと当組合オリジナルの総合健診コースでの受診も可能とする。	ア,イ,ウ,キ,コ	※基本情報には特定健診予算1,552千円と入力しているが、それは被扶養者の純粋な特定健診コースの予算額である。 ・今回の予算額は被保険者の総合健診分から特定健診費用を作出して合計した。 ・浜仁会グループの健診機関との契約により、総合健診コースを中心に健診を実施する。	12,821	・被保険者の特定健診受診率は100%とする。 ・被扶養者の特定健診受診率は60%とする。	・特定健診は国への報告義務があり、達成目標が決められている。 ・健診受診率を向上して生活習慣病リスク者を把握し、予防及び早期改善を図る。	・総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。
健診受診の勧奨(【実績値】3回 【目標値】令和2年度：3回)・被保険者の総合健診受診案内勧奨を実施する。 ・被扶養者の特定健診及び総合健診は「受診券」を発行して受診勧奨を実施する。													受診率(【実績値】89.94% 【目標値】令和2年度：100%)・被保険者の総合健診受診率を100%とする。 ・被扶養者の特定健診及び総合健診受診率を60%とする。			
保健指導宣伝	1,2,3,4,5	既存	各種健康増進キャンペーンの実施	母体企業	男女	18～74	被保険者	1	ア,イ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ	①ウォーキングラリーの実施：1日、8,000歩、2ヶ月実施し、達成ポイントを付与する。 ②体重測定キャンペーンの実施：14日間の体重管理、最低10日間の体重策定によりポイントを付与する。 ③健康クイズの実施：1問正解で50ポイント、更に6カテゴリ全問正解で1000ポイント付与 ④睡眠キャンペーン：10日以上睡眠時間登録で500ポイント付与	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,シ	①40歳以上75歳未満の被保険者を対象として、ウェアラブル活動量計の同期、健康増進アプリ「PepUp」登録者に各種健康増進キャンペーンを実施する。	4,017	令和2年度に初実施の事業計画である。	・手軽なウォーキングを実施して、健康増進を図る。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では(良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%)となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費(その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等)、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は(関節症2.17%、椎間板障害1.16%)となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。
参加者登録数(【実績値】 - 【目標値】令和2年度：80%)①各種キャンペーンは健康増進アプリ「PepUp」登録者のうち参加率80%とする。													目標歩数達成者数(【実績値】 - 【目標値】令和2年度：70%)・各種キャンペーン登録者のうち、目標歩数達成者は70%とする。			
2,3,4,5	既存	歯周病予防及び禁煙対策	全て	男女	18～74	被保険者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,コ,シ	・全被保険者に「デンタルIQチェック」を実施する。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ	・ICTを活用し、歯科医師が専門に作成した問診36項目に回答してもらい、口腔ケアの状況や歯の治療等の状況分析修正を実施し、対策を講ずる。	4,500	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・医療費のうち歯科医療費の増加を抑制する。 ・歯周病予防による健康意識の向上と禁煙の啓蒙を図る。	・医療費のうち、歯周病関連の歯科医療費割合が毎年度約12%を占めている。	

予 算 科 目	注1) 事業 分類	新規 既存	事業名	対象者				注2) 実施 主体	注3) プロセス 分類	実施方法	注4) ストラク チャー 分類	実施体制	予算額 (千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連	
				対象 事業所	性別	年 齢	対象者										
アウトプット指標													アウトカム指標				
歯周病予防及び禁煙啓蒙活動(【実績値】 - 【目標値】 令和2年度：100%)・「デンタルIQチェック」開始の周知について、全事業所の担当者及び被保険者にポスター等の周知を100%とする。													「デンタルIQチェック」実施アンケート回収率(【実績値】 - 【目標値】 令和2年度：70%)・「デンタルIQチェック」問診回答率を70%とする。				
2,3,4,5	新規		「つよい子になるぞ！」キャンペーン	全て	男女	3～10	被扶養者	1	ア,ク,ケ,ス	・3歳から10歳の被扶養者に、3ヶ月間「手洗い・うがい・歯みがき」を推奨し、風邪や虫歯・感染症等を予防してもらう。	イ,ウ,カ,キ,ク,ケ,ス	・健保組合が委託した業者より、本キャンペーンの案内を対象の被扶養者自宅あてに発送してもらい、家族で10月から12月までの3ヶ月間、「手洗い・うがい・歯みがき」を実施して、カレンダーにシールを貼る。 ・アンケートに回答すると商品がもらえるという仕組みを説明する。	300	当組合初の被扶養者の呼吸器系疾患予防の活動について実施。	被扶養者の呼吸器系疾患医療費減少への啓発。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。	
加入者への啓発(【実績値】 - 【目標値】 令和2年度：2回)対象者へのキャンペーン案内回数2回実施する。													アンケート回収率(【実績値】 - 【目標値】 令和2年度：50%)・キャンペーン対象者のうち、アンケートはがき回答率。				
1,3,4,5,7	既存		後発医薬品の使用割合の増加	全て	男女	0～74	加入者全員	1	イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・年2回、3,000円以上の個人負担が発生することを条件として、後発医薬品の差額通知」を発行する。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,シ	・年3回、ポスター及びチラシを加入者及び事業主に配付して、後発医薬品使用の勧奨を図る。	100	・年度毎に後発医薬品使用割合を80%以上確保する。	・薬剤費用の減少	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。	
加入者への啓発(【実績値】 85% 【目標値】 令和2年度：100%)・年3回、ポスター及びチラシを加入者及び事業主に配付を図る。													後発医薬品使用割合(【実績値】 78.5% 【目標値】 令和2年度：82.5%)・令和2年度の後発医薬品の使用割合が、82.5%まで増加する。				
疾病 予 防	2,4	既存	年代別男女別被保険者へのがん検診の補助	母体企業	男女	18～74	被保険者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	・被保険者(40歳以上75歳未満)のがん検診補助は健保組合が全額実施する。 ・但し、子宮頸がん検診は18歳以上の被保険者から補助する。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ	・各事業所の職員健診時期に「がん検診の有効性と補助内容」について案内を実施する。	7,847	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・特に被保険者の70%を占める女性のがん検診の受診率を向上させ、がんの予防と早期発見及び早期治療を図る。 ・その他、年代別のがん検診補助実施し、がんの予防と早期発見及び早期治療を図る。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。	
	がん検診案内の通知率(【実績値】 100% 【目標値】 令和2年度：100%)・総合健診の案内と同時に事業所経由で、被保険者に対して年代別がん検診補助の案内（ポスター・チラシ等の情報も含む）を年3回、100%通知する。													年代別がん検診受診率(【実績値】 1,632人 【目標値】 令和2年度：1,681人)・年代別がん検診受診率は前年度比3%増加させる。 ・平成29年度からは総合健診の補助対象年齢による「がん検診」内容及び補助対象者を変更した。			
	2,4	既存	被扶養者・任意継続者のがん検診受診率向上	母体企業	女性	40～74	被扶養者	1	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ	・子宮頸がん検診、乳がん検診は、特定健診や総合健診と同時に受診することを可能にしたい、受診勧奨を実施する。	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ	・健保組合が全額補助を実施する。	1,672	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・被扶養者の乳がん、子宮頸がんの早期発見及び早期治療を図る。 ・新生物の医療費の減少。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。	
受診勧奨の送付(【実績値】 2回 【目標値】 令和2年度：2回)対象の未受診者へ受診勧奨通知を年3回、100%発送する。													受診率の向上(【実績値】 20.1% 【目標値】 令和2年度：3.01%)・乳がん検診・子宮がん検診の受診率は、前年度より10%増加される。				

予 算 科 目	注1) 事業 分類	新規 既存	事業名	対象者			注2) 実施 主体	注3) プロセス 分類	実施方法	注4) ストラク チャー 分類	実施体制	予算額 (千円)	実施計画	事業目標	健康課題との関連				
				対象 事業所	性別	年 齢										対象者			
アウトプット指標																アウトカム指標			
	2,3	既 存	奥さま健診の 受診率向上	母体企 業	女性	18 ～ 39	被扶養 者	1	ア,イ,ウ,エ ,オ,カ,キ, ク,ケ,コ,サ	・40歳前の女性配偶者である被扶養者に生活習慣病予防健診を実施する。	ア,イ,ウ,エ ,オ,カ,キ, ク,ケ	・全額健保組合補助を実施する。	1,683	・前年度の状況により、具体策を検討する。	・特定健診対象年齢40歳到達前の年齢から、生活習慣病の予防及び改善を図る。 ・奥さま健診受診者の健康意識が向上すると、被保険者及び家族全体の健康意識も向上する。	・総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。			
受診勧奨通知の送付(【実績値】 75人 【目標値】 令和2年度：100人)・受診者への案内通知及び未受診者への受診勧奨は、年3回、100%送付する。												奥さま健診の受診率(【実績値】 46.0% 【目標値】 令和2年度：47.0%)・前年度の受診率より10%増加させる。							
体 育 奨 励	1,2,3, 4,5,6	新規	健康増進（ダイエット）プログラム	全て	男女	18 ～ 60	被保険 者	1	ア,エ,オ,キ ,ク,ケ,コ, シ	・浜仁会グループのフィットネスジムで体力測定、栄養指導、運動機器を利用して、3か月間での目標達成を実施するプログラムである。 ・1回の開催定員20名として夏と秋、年2回開催する。	ア,イ,ウ,キ ,シ	・健保組合がフィットネスジム契約して、開催時期と募集方法を検討して被保険者を対象に参加希望を実施する。	814	・夏に開催する1回目、秋に開催する2回目ともに、20名の定員が満員となり、基本目標である体重3kg減、体力の維持増進を図る。	・ダイエットプログラムを実践することにより、日々の運動継続と食事バランスを保ち、生活習慣病の予防や改善を図る。	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。			
	参加人数(【実績値】 - 【目標値】 令和2年度：40人)・1回目、秋に開催する2回目ともに20名の定員満員（2回分=40名）となり実施できること。												目標達成者数(【実績値】 - 【目標値】 令和2年度：20人)・基本目標である体重3kg減量達成者数。						
個別の事業																			

個別の事業

注1) 1．職場環境の整備 2．加入者への意識づけ 3．健康診査 4．保健指導・受診勧奨 5．健康教育 6．健康相談 7．後発医薬品の使用促進 8．その他の事業

注2) 1．健保組合 2．事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3．健保組合と事業主との共同事業

注3) ア．加入者等へのインセンティブを付与 イ．受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況） ウ．受診状況の確認（がん検診・歯科健診の受診状況） エ．ＩＣＴの活用（情報作成又は情報提供でのＩＣＴ活用など） オ．専門職による対面での健診結果の説明 カ．他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ．定量的な効果検証の実施 ク．対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など） ケ．参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） コ．健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ．保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ．事業主と健康課題を共有 ス．その他

注4) ア．事業主との連携体制の構築 イ．産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ．専門職との連携体制の構築（産業医・産業保健師を除く） エ．他の保険者との共同事業 オ．他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ．自治体との連携体制の構築 キ．医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク．保険者協議会との連携体制の構築 ケ．その他の団体との連携体制の構築 コ．就業時間内も実施可（事業主と合意） サ．運営マニュアルの整備（業務フローの整理） シ．人材確保・教育（ケースカンファレンス／ライブラリーの設置） ス．その他

STEP 4-1 事業報告

事業の一覧

職場環境の整備	
1	年齢階層別被保険者の総合健診事業の効率的な運用
2	特定保健指導の実施率向上
3	健診異常値放置者対策の受診勧奨事業
4	産業保健支援室「まめやか相談室」のメンタルヘルス活動支援
加入者への意識づけ	
1	特定健診（被保険者及び被扶養者）の実績向上
2	年代別男女別被保険者へのがん検診の補助
3	被扶養者・任意継続者のがん検診受診率向上
4	奥さま健診の受診率向上
5	健康増進（ダイエット）プログラム
6	各種健康増進キャンペーンの実施
7	歯周病予防及び禁煙対策
8	「つよい子になるぞ！」キャンペーン
9	後発医薬品の使用割合の増加
個別の事業	

【保健事業の基盤】 職場環境の整備

1	事業名	年齢階層別被保険者の総合健診事業の効率的な運用							
健康課題との関連		・ 総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・ 被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。							
分類									
注1)事業分類	計画	3-イ	実施主体	計画	3．健保組合と事業主との共同事業	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア, 1-ウ, 1-エ, 2, 3-ア, 3-イ, 3-ウ, 3-エ, 3-キ, 4-ア, 4-イ, 4-ウ, 4-エ, 4-オ, 4-カ, 4-キ, 4-ク, 5-ア, 5-イ, 5-ウ, 5-エ, 5-オ, 5-キ, 5-ク		実績	3．健保組合と事業主との共同事業				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 35 ～ 74 対象者分類 被保険者							
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 35 ～ 74 対象者分類 被保険者							
注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	実施方法	計画	・ 各事業所の健診予定月毎に健診案内を配付し、受診予定者の補助金申請書により受診予定数及び補助額を把握する。	予算額		22,335千円	
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ		実績	・ 各事業所の健診予定月毎に健診案内を配付し、受診予定者の補助金申請書により受診予定数及び補助額を把握した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施体制	計画	・ 溪仁会円山クリニックとの情報交換を実施する。	決算額		15,206 千円	
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・ 溪仁会円山クリニックとの情報交換を実した。				
実施計画 (令和2年度)		・ 前年度の状況により、具体策を検討する。							
振り返り	実施状況・時期		・ Aコース（35～40歳未満）1人当たり2,700円補助、受診者数523名 ・ Bコース（40～55歳未満）1人当たり15,120円補助、受診者数1,382名 ・ Cコース（55～65歳未満）1人当たり15,120円補助、受診者数471名 ・ Dコース（65～75歳未満）1人当たり15,120円補助、受診者数124名 ・ 合計2,500名(前年度比+68名) ※受診率は全対象者の93.2%						
	成功・推進要因		・ C、Dコースは、喫煙者に胸部CT検査を追加、男性には前立腺がん血液検査を追加している。 ・ Dコースは、女性に骨粗鬆症検査を追加している。						
	課題及び阻害要因		・ 事業所によっては100%受診に満たないところがあるため、健保組合と事業所が情報連携して、未受診者対策を実施する。						
評価		4．80%以上							
事業目標									

・健診データの一元化により、年代別生活習慣病の予防及び改善を図る。

アウトプット指標

健診案内及び受診勧奨（【平成29年度末の実績値】100%【計画値/実績値】令和2年度：100%/100% 【達成度】100.0%）・「総合健診」の案内及び受診勧奨を事業所経由で100%実施する。[-]

アウトカム指標

総合健診受診率（【平成29年度末の実績値】93.4%【計画値/実績値】令和2年度：100%/93.2% 【達成度】93.2%）・全事業所の被保険者が「総合健診」を100%受診する。[-]

2 事業名		特定保健指導の実施率向上									
健康課題との関連		・ 総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・ 被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。									
分類											
注1)事業分類	計画	1-エ,2,4-ア		実施主体	計画	3．健保組合と事業主との共同事業		予算科目	特定保健指導事業	新規・既存区分	既存(法定)
	実績	1-ア, 1-ウ, 1-エ, 2, 3-ア, 3-イ, 3-ウ, 3-エ, 3-オ, 3-キ, 4-ア, 5-ア, 5-イ, 5-ウ, 5-エ, 5-オ, 5-キ, 5-ク			実績	3．健保組合と事業主との共同事業					
事業の内容											
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 35 ～ 74 対象者分類 基準該当者									
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 35 ～ 74 対象者分類 基準該当者									
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実施方法	計画	・ 健診当日の階層化による生活習慣病リスク者の面接を勧奨する。		予算額			3,244千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ			実績	・ 健診当日の階層化による生活習慣病リスク者の面接を勧奨した。					
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,シ		実施体制	計画	・ 溪仁会円山クリニックとの契約により「総合健診健康サポート事業」を実施する。		決算額			3,891 千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,シ			実績	・ 溪仁会円山クリニックとの契約により「総合健診健康サポート事業」を実施した。					
実施計画(令和2年度)		・ 前年度の状況により、具体策を検討する。									

振り返り	実施状況・時期	【令和3年6月末現在】 ①動機づけ支援対象者179名、評価終了者138名（前年度比+90名） ②積極的支援対象者143名、評価終了者109名(前年度比+61名) ※対象者計322名、評価終了者計247名 ※評価終了実施率76.7%（前年度対比+151名） ※国への報告は令和3年10月末であり、現在も継続実施中である。
	成功・推進要因	・健保組合から特定保健指導対象者の利用券を事業所管理者および健診担当者に送付した。 ・健診当日初回面談を開始した。
	課題及び阻害要因	・被保険者の健康管理のため、安衛法で実施している健康診断のフォローアップも必ず実施するという溪仁会グループの方針や規程が必要である。
評価	2. 40%以上	
事業目標		
・生活習慣病の罹患率を減少させることにより、心疾患及び腎不全等の医療費を減少される。 ・加入者が健康で元気な生活を送ることができ、業務の効率化が図られる。		
アウトプット指標		
特定保健指導「利用券」送付（【平成29年度末の実績値】10.3%【計画値/実績値】令和2年度：100%/100% 【達成度】100.0%）・「利用券」の送付は、事業所担当者経由で100%対象者に配付する。 。[-]		
アウトカム指標		
特定保健指導実施率（【平成29年度末の実績値】11.9%【計画値/実績値】令和2年度：63%/76.7% 【達成度】121.7%）・特定保健指導の実施率を60%とする。[・2021年6月末現在 ・35歳以上75歳未満の特定保健指導実施率76.7% ・国への報告対象40歳以上75歳未満の特定保健指導達成率81.3%の状況である。 ※但し、実際の国への報告は条件プログラムよるため、国への報告処理は10月末を予定しているため、現在の実施率は未確定である。]		

3	事業名	健診異常値放置者対策の受診勧奨事業							
健康課題との関連		・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。							
分類									
注1)事業分類	計画	1-エ,2,4-ア,4-カ,6	実施主体	計画	3．健保組合と事業主との共同事業	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-エ,3-オ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-オ,4-カ,5-ウ,5-オ,6		実績	3．健保組合と事業主との共同事業				
事業の内容									

対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 被保険者					
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 被保険者					
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施方法	計画	・高血圧症、糖尿病のハイリスク者に脳ドック「受診券」を配付する。	予算額	4,180千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・高血圧症、糖尿病のハイリスク者に脳ドック「受診券」を配付した。		
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ケ,コ,シ	実施体制	計画	・溪仁会円山クリニックと契約し、組合補助で「脳ドック」を実施する。	決算額	920 千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ケ,コ,シ		実績	・溪仁会円山クリニックと契約し、組合補助で「脳ドック」を実施した。		
実施計画 (令和2年度)	・前年度の状況により、具体策を検討する。						
振り返り	実施状況・時期		・ 令和2年11月から令和3年3月までの5ヵ月間、検査受診勧奨を実施した。 ・ 疾病リスクを保健師が抽出して100名を対象としたが検査受診実績は22名であった。 ・ 検査受診者のうち所見者が7名発生した。				
	成功・推進要因		【所見の内訳】 ・ 脳動脈瘤疑い2名、動脈硬化進行予防のため糖尿病・高血圧症等の加療継続指示3名、2～3年後に検査指示2名となった。 ・ 溪仁会円山クリニックと溪仁会グループ病院との検査枠の調整があった。				
	課題及び阻害要因		・ コロナ禍で病院の休診も発生した。 ・ 令和3年度も国の保険者機能強化支援事業補助金を活用して、「脳ドック」等の検査を実施する。				
評価	1．39%以下						
事業目標							
・ 総合健診等の健診結果「要治療・要精査」判定の被保険者の病院受診をさせ、病気の予防及び早期発見、早期治療を図る。 ・ 医療費の抑制と労働者の安全、安心を図る。							
アウトプット指標							
健診結果「要治療・要精査判定者」把握（【平成29年度末の実績値】319人【計画値/実績値】令和2年度：100人/99人 【達成度】99.0%）・ハイリスク対象者100名の対象者に「受診券」を配付する。 。[-]							
アウトカム指標							
対象者への受診勧奨実施率（【平成29年度末の実績値】50.0%【計画値/実績値】令和2年度：100%/22.0% 【達成度】22.0%）・ハイリスク対象者100名の補助予算のうち、全員が脳ドックを実施する。 。[-]							

4	事業名	産業保健支援室「まめやか相談室」のメンタルヘルス活動支援
---	-----	------------------------------

健康課題との関連	・メンタル系疾患は、気分[感情]障害、ストレス障害の疾患が多い。 ・後発医薬品の使用割合においては、令和元年度から80%超の使用割合となっている。								
分類									
注1)事業分類	計画	1-エ,2,5-エ	実施主体	計画	3. 健保組合と事業主との共同事業	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア, 1-ウ, 1-エ, 2, 3-ア, 3-イ, 3-ウ, 3-カ, 3-キ, 4-ア, 4-イ, 5-エ		実績	3. 健保組合と事業主との共同事業				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 加入者全員							
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 加入者全員							
注2)プロセス分類	計画	イ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	実施方法	計画	・毎月1回実施する「産業保健支援室会議」で状況報告を確認する。	予算額	200千円		
	実績	イ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ		実績	・毎月1回実施する「産業保健支援室会議」で状況報告を確認した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施体制	計画	・「産業保健支援室」の保健師等の交通費、研修費等を必要に応じ補助する。	決算額	0 千円		
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・「産業保健支援室」の保健師等の交通費、研修費等を必要に応じ補助した。				
実施計画 (令和2年度)	・前年度の状況により、具体策を検討する。								
振り返り	実施状況・時期 【相談件数】 ・述べ652件 ・前年度比+202件（うち新規相談172件で前年度+7件） ・継続相談者361名、 ・修了者155名								
	成功・推進要因 ・「まめやか相談室」の周知や産業カウンセラー等の研修等の活用により、メンタルヘルス相談者が気軽に相談できる状況となってきた。 ※適応相談が253件（前年度+84件）となっている。								
	課題及び阻害要因 ・健保組合が集計した令和2年度「傷病手当金」申請54件のうち、メンタル系の給付申請は32件(59.3%)、前年度比+2.6%であった。 ・これまで以上に「まめやか相談室」を気軽に利用できるように、産業保健支援室で、リーフレットやポスター等を作成し、メンタル不調者の重症化予防を啓蒙する。								
評価	5. 100%								
事業目標									

- ・働きやすい職場環境への改善。
- ・メンタル疾患の減少による業務効率の向上と医療費の減少。

アウトプット指標

相談室利用延べ件数（【平成29年度末の実績値】501人【計画値/実績値】令和2年度：490人/652人　【達成度】133.1%）・「まめやか相談室」の延べ利用者数を550人に増加させる。[-]

アウトカム指標

傷病手当金受給者数（【平成29年度末の実績値】110.0%【計画値/実績値】令和2年度：112.0%/59.3%　【達成度】52.9%）・精神疾患による傷病手当金受給者数を年間2%減少させる。[-]

【保健事業の基盤】 加入者への意識づけ

1	事業名	特定健診（被保険者及び被扶養者）の実績向上							
健康課題との関連		・ 総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・ 被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。							
分類									
注1)事業分類	計画	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-キ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-オ,4-カ,5-ア,5-イ,5-ウ,5-オ,6	実施主体	計画	3. 健保組合と事業主との共同事業	予算科目	特定健康診査事業	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア, 1-ウ, 1-エ, 2, 3-ア, 3-イ, 3-ウ, 3-キ, 4-ア, 4-イ, 4-ウ, 4-エ, 4-オ, 4-カ, 5-ア, 5-イ, 5-ウ, 5-オ, 6		実績	3. 健保組合と事業主との共同事業				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40 ～ 74 対象者分類 被保険者,被扶養者,任意継続者							
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40 ～ 74 対象者分類 被保険者,被扶養者,基準該当者,任意継続者							
注2)プロセス分類	計画	イ,オ,ク,ケ,コ,シ	実施方法	計画	・ 被保険者は年齢階層別の総合健診コースの中で特定健診を実施する。 ・ 被扶養者は特定健診の基本項目のコースと当組合オリジナルの総合健診コースでの受診も可能とする。		予算額	12,821千円	
	実績	イ,エ,オ,ク,ケ,コ,シ		実績	・ 被保険者は年齢階層別の総合健診コースの中で特定健診を実施する。 ・ 被扶養者は特定健診の基本項目のコースと当組合オリジナルの総合健診コースでの受診も可能とする。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,コ	実施体制	計画	※基本情報には特定健診予算1,552千円と入力しているが、それは被扶養者の純粋な特定健診コースの予算額である。 ・ 今回の予算額は被保険者の総合健診分から特定健診費用を作出して合計した。 ・ 湊仁会グループの健診機関との契約により、総合健診コースを中心に健診を実施する。		決算額	12,097 千円	
	実績	ア,イ,ウ,キ,コ		実績	・ 湊仁会グループの健診機関との契約により、総合健診コースを中心に健診を実施する。				
実施計画 (令和2年度)		・ 被保険者の特定健診受診率は100%とする。 ・ 被扶養者の特定健診受診率は60%とする。							
振り返り	実施状況・時期		・ 被保険者の特定健診受診実績1,977名(98.12%) ・ 被扶養者の特定健診受診実績145名 (43.03%)						
	成功・推進要因		・ 被保険者は事業主健診時期に健保組合に総合健診補助申請を提出することにより受診状況を把握した。 ・ 被扶養者は健保組合が直接、対象者の自宅あてに「受診券」を発送し、健診機関との受診予約及び進捗を確認した。						
	課題及び阻害要因		・ 新型コロナウイルス感染予防の影響により受診控えや健診時期の変更が生じた。 ・ 健診機関の休診も影響した。						

評価	4. 80%以上
事業目標	
・特定健診は国への報告義務があり、達成目標が決められている。 ・健診受診率を向上して生活習慣病リスク者を把握し、予防及び早期改善を図る。	
アウトプット指標 健診受診の勧奨（【平成29年度末の実績値】3回【計画値/実績値】令和2年度：3回/3回 【達成度】100.0%）・被保険者の総合健診受診案内勧奨を実施する。 ・被扶養者の特定健診及び総合健診は「受診券」を発行して受診勧奨を実施する。[-]	
アウトカム指標 受診率（【平成29年度末の実績値】89.94%【計画値/実績値】令和2年度：100%/87.1% 【達成度】87.1%）・被保険者の総合健診受診率を100%とする。 ・被扶養者の特定健診及び総合健診受診率を60%とする。[・新型コロナウイルス感染予防の影響により受診控えや健診時期の変更が生じた。 ・健診機関の休診も影響した。]	

2 事業名		年代別男女別被保険者へのがん検診の補助							
健康課題との関連		・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。							
分類									
注1)事業分類	計画	2,4-オ	実施主体	計画	1．健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-エ,3-キ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-オ,4-カ,4-ク,5-ア,5-イ,5-エ,5-オ,5-キ,5-ク		実績	1．健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所母体企業性別男女年齢18～74対象者分類被保険者							
	実績	対象事業所母体企業性別男女年齢18～74対象者分類被保険者							
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施方法	計画	・被保険者(40歳以上75歳未満)のがん検診補助は健保組合が全額実施する。 ・但し、子宮頸がん検診は18歳以上の被保険者から補助する。			予算額	7,847千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・被保険者(40歳以上75歳未満)のがん検診補助は健保組合が全額実施した。 ・但し、子宮頸がん検診は18歳以上の被保険者から補助した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,コ	実施体制	計画	・各事業所の職員健診時期に「がん検診の有効性と補助内容」について案内を実施する。			決算額	8,482 千円

	実績	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、コ	実績	・各事業所の職員健診時期に「がん検診の有効性と補助内容」について案内を実施した。	
実施計画 (令和2年度)	・前年度の状況により、具体策を検討する。				
振り返り	実施状況・時期	・胸部ＣＴ検査、受診者数104名(前年度比-19名) ・前立腺腫瘍マーカー検査、受診者数201名(前年度比+36名) ・乳がん検診(マンモ、エコー検査)　、受診者数787名(前年度比+52名) ・子宮(頸部)がん検診受診者数634名(前年度比-43名)、再掲18～39歳71名(前年度比-36名)			
	成功・推進要因	・肺がんの早期発見 ・喫煙している被保険者に実施している。 ※被保険者の喫煙者数は374人（男性149人、女性225人）、喫煙者割合は23.1% ・その他がんの早期発見、早期治療			
	課題及び阻害要因	・肺がんの早期発見のために、検査受診者を増加したいが、放射線被ばくも懸念されているため、今後も検討する。 ・受診率及び有所見者年齢等を把握し、受診勧奨をする。 ・子宮がん検診は、早期発見及び受診率向上のため、令和3年度から、総合健診とは別に契約健診機関以外での単独受診に対しても、償還払いによる補助を実施する。			
	評価	５．100%			
事業目標					
・特に被保険者の70%を占める女性のがん検診の受診率を向上させ、がんの予防と早期発見及び早期治療を図る。 ・その他、年代別のがん検診補助実施し、がんの予防と早期発見及び早期治療を図る。					
アウトプット指標					
がん検診案内の通知率（【平成29年度末の実績値】100%【計画値/実績値】令和2年度：100%/100%　【達成度】100.0%）・総合健診の案内と同時に事業所経由で、被保険者に対して年代別がん検診補助の案内（ポスターチラシ等の情報も含む）を年3回、100%通知する。[-]					
アウトカム指標					
年代別がん検診受診率（【平成29年度末の実績値】1,632人【計画値/実績値】令和2年度：1,681人/1,726人　【達成度】102.7%）・年代別がん検診受診率は前年度比3%増加させる。 ・平成29年度からは総合健診の補助対象年齢による「がん検診」内容及び補助対象者を変更した。[-]					

3	事業名	被扶養者・任意継続者のがん検診受診率向上							
健康課題との関連	・医療費は３年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、１人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の１人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。								
分類									
注1)事業分類	計画	2,4-オ	実施主体	計画	1．健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存

	実績	1-ア, 1-エ, 2, 3-ア, 3-イ, 3-ウ, 3-エ, 3-キ, 4-ア, 4-イ, 4-ウ, 4-エ, 4-オ, 4-カ, 4-キ, 4-ク, 5-ア, 5-イ, 5-ウ, 5-オ, 5-キ		実績	1. 健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 女性 年齢 40～74 対象者分類 被扶養者							
	実績	対象事業所 母体企業 性別 女性 年齢 40～74 対象者分類 被扶養者							
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ	実施方法	計画	・子宮頸がん検診、乳がん検診は、特定健診や総合健診と同時に受診することを可能してい、受診勧奨を実施する。			予算額	1,672千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ		実績	・子宮頸がん検診、乳がん検診は、特定健診や総合健診と同時に受診することを可能してい、受診勧奨を実施した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ	実施体制	計画	・健保組合が全額補助を実施する。			決算額	909 千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ		実績	・健保組合が全額補助を実施した。				
実施計画 (令和2年度)	・前年度の状況により、具体策を検討する。								
振り返り	実施状況・時期		・乳がん(マンモ、エコー)検診、受診者99名(前年度比±0名) ・子宮(頸部)がん検診、受診者94名(前年度-1名)						
	成功・推進要因		・新型コロナウイルス感染症拡大による受診控えが影響した。 ・受診者負担の無料化を継続する。						
	課題及び阻害要因		・被扶養者が積極的にがん検診を受診してもらえる環境や情報の提供を検討する。						
評価	4. 80%以上								
事業目標									
・被扶養者の乳がん、子宮頸がんの早期発見及び早期治療を図る。 ・新生物の医療費の減少。									
アウトプット指標									
受診勧奨の送付（【平成29年度末の実績値】2回【計画値/実績値】令和2年度：2回/2回 【達成度】100.0%）対象の未受診者へ受診勧奨通知を年3回、100%発送する。[・受診券発送時に1回、健保連共同事業「レディース健診」案内時に1回実施した。]									
アウトカム指標									
受診率の向上（【平成29年度末の実績値】20.1%【計画値/実績値】令和2年度：3.01%/2.98% 【達成度】99.0%）・乳がん検診・子宮がん検診の受診率は、前年度より10%増加される。[-]									

4	事業名	奥さま健診の受診率向上
健康課題との関連	・総合健診の実施により、被保険者の受診率は増加したが、新生物、循環器系疾患等の医療費が多い。 ・被扶養者の特定健診受診率は50%に満たない。	

分類										
注1)事業分類	計画	2,3-キ		実施主体	計画	1．健保組合	予算科目	疾病予防	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア, 1-エ, 2, 3-ア, 3-イ, 3-ウ, 3-エ, 3-キ, 4-ア, 4-イ, 4-ウ, 4-エ, 4-オ, 4-カ, 4-キ, 5-ア, 5-イ, 5-ウ, 5-エ, 5-オ, 5-キ			実績	1．健保組合				
事業の内容										
対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 女性 年齢 18～39 対象者分類 被扶養者								
	実績	対象事業所 母体企業 性別 女性 年齢 18～39 対象者分類 被扶養者								
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ			実施方法	計画	・40歳前の女性配偶者である被扶養者に生活習慣病予防健診を実施する。		予算額	1,683千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ				実績	・40歳前の女性配偶者である被扶養者に生活習慣病予防健診を実施した。			
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ			実施体制	計画	・全額健保組合補助を実施する。		決算額	886 千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ				実績	・全額健保組合補助を実施した。			
実施計画 (令和2年度)	・前年度の状況により、具体策を検討する。									
振り返り	実施状況・時期		・受診者37名(前年度比-17名) ・乳がん(マンモ、エコー)検診受診者32名(前年度比-16名) ・子宮(頸部)がん検診受診者30名(前年度比-16名)							
	成功・推進要因		・新型コロナウイルス感染症拡大による受診控えが影響し、例年3月末の駆け込み受診は0人であった。							
	課題及び阻害要因		・新型コロナウイルス感染症拡大による自粛モードとなり、お子さんがいる年代が健診受診を控えた。							
評価	1．39%以下									
事業目標										
・ 特定健診対象年齢40歳到達前の年齢から、生活習慣病の予防及び改善を図る。 ・ 奥さま健診受診者の健康意識が向上すると、被保険者及び家族全体の健康意識も向上する。										
アウトプット指標										
受診勧奨通知の送付（【平成29年度末の実績値】75人【計画値/実績値】令和2年度：100人/32人 【達成度】32.0%）・受診者への案内通知及び未受診者への受診勧奨は、年3回、100%送付する。[-]										
アウトカム指標 奥さま健診の受診率（【平成29年度末の実績値】46.0%【計画値/実績値】令和2年度：47.0%/29.23% 【達成度】62.2%）・前年度の受診率より10%増加させる。[-]										

5	事業名	健康増進（ダイエット）プログラム
---	-----	------------------

健康課題との関連	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。								
分類									
注1)事業分類	計画	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-キ,4-ア,4-カ,5-ア,5-イ,5-ウ,5-キ,6	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	体育奨励	新規・既存区分	新規
	実績	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-キ,4-ア,4-カ,5-ア,5-イ,5-ウ,5-キ,6		実績	1. 健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～60 対象者分類 被保険者							
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18～60 対象者分類 被保険者							
注2)プロセス分類	計画	ア,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ	実施方法	計画	・ 溪仁会グループのフィットネスジムで体力測定、栄養指導、運動機器を利用して、3か月間での目標達成を実施するプログラムである。 ・ 1回の開催定員20名として夏と秋、年2回開催する。		予算額	814千円	
	実績	ア,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ		実績	・ 溪仁会グループのフィットネスジムで体力測定、栄養指導、運動機器を利用して、3か月間での目標達成を実施するプログラムである。 ・ 1回の開催定員20名として夏と秋、年2回開催する。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,キ,シ	実施体制	計画	・ 健保組合がフィットネスジム契約して、開催時期と募集方法を検討して被保険者を対象に参加希望を実施する。		決算額	544 千円	
	実績	ア,イ,ウ,キ,シ		実績	・ 健保組合がフィットネスジム契約して、開催時期と募集方法を検討して被保険者を対象に参加希望を実施する。				
実施計画 (令和2年度)	・ 夏に開催する1回目、秋に開催する2回目ともに、20名の定員が満員となり、基本目標である体重3kg減、体力の維持増進を図る。								

振り返り	実施状況・時期	・ 募集開始から希望者が定員20名を超えたことにより、無料でダイエットプログラムを実践できることへの期待が大きい。 【実施年月日】 ・ 第1回目は、2020年7月28日～10月29日、参加者数20名 ・ 第2回目は、2020年11月24日～2021年2月25日、参加者数15名
	成功・推進要因	【目標達成者等の状況】 ・ 第1回目は13名（リタイヤ3名） ・ 第2回目は10名（コロナ禍によるキャンセル3名） ※5名程度のチーム編成で運動等を実施した。 ※初回の体力測定の結果により、健康運動指導士と管理栄養士の指導により、無理のない自分に合った目標と時間でトレーニングジムを利用できた。 ※1か月毎に定期的に目標の進捗状況を確認した。 ※3か月のプログラム終了後、目標達成者へのインセンティブとして、健保組合より更に3か月間のトレーニングジム無料利用ポイントを付与した。
	課題及び阻害要因	・ トレーニングジムの面積とマンパワーにより、年2回のみの開催に限定される。 ・ 本来は特定保健指導のメタボリスク者を中心に実践したいが、そういう方は勧奨しても参加否定をする。
	評価	3．60%以上
事業目標		
・ ダイエットプログラムを実践することにより、日々の運動継続と食事バランスを保ち、生活習慣病の予防や改善を図る。		
アウトプット指標		
参加人数（【平成29年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和2年度：40人/35人 【達成度】 87.5%）・1回目、秋に開催する2回目ともに20名の定員満員（2回分=40名）となり実施できること。[・新型コロナウイルス感染症予防により、予防対策をしてるとはいえ、通常のように積極的に勧誘ができない。 ・ 本人からの希望によるキャンセルもこの時期やむおえない。]		
アウトカム指標 目標達成者数（【平成29年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和2年度：20人/23人 【達成度】 115.0%）・基本目標である体重3kg減量達成者数。[-]		

6 事業名		各種健康増進キャンペーンの実施									
健康課題との関連		・ 医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・ 1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・ 循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・ 筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・ 内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・ 生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。									
		分類									
		注1)事業分類	計画	1-イ,1-エ,2,3-ア,3-キ,4-ア,4-カ,4-ク,5-ア,5-イ,5-キ	実施主体	計画	1．健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
			実績	1-ア,1-イ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-エ,3-オ,3-カ,3-キ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-カ,4-ク,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,5-オ,5-キ		実績	1．健保組合				
		事業の内容									

対象者	計画	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 被保険者					
	実績	対象事業所 母体企業 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 被保険者					
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ	実施方法	計画	①ウォーキングラリーの実施：1日、8,000歩、2ヶ月実施し、達成ポイントを付与する。 ②体重測定キャンペーンの実施：14日間の体重管理、最低10日間の体重策定によりポイントを付与する。 ③健康クイズの実施：1問正解で50ポイント、更に6カテゴリ全問正解で1000ポイント付与 ④睡眠キャンペーン：10日以上睡眠時間登録で500ポイント付与	予算額	4,017千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ		実績	①ウォーキングラリーの実施：1日、8,000歩、2ヶ月実施し、達成1,000ポイントを付与した。 ②体重測定キャンペーンの実施：14日間の体重管理、最低10日間の体重測定により500ポイントを付与した。 ③健康クイズの実施：1問正解で50ポイント、更に6カテゴリ30問全問正解で1000ポイント付与した。 ④睡眠チャレンジの実施：1か月間の睡眠時間測定を実施した。1日の登録につき50ポイント付与した。		
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,シ	実施体制	計画	①40歳以上75歳未満の被保険者を対象として、ウェアラブル活動量計の同期、健康増進アプリ「PepUp」登録者に各種健康増進キャンペーンを実施する。	決算額	2,722 千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,コ,シ		実績	①40歳以上75歳未満の被保険者を対象として、ウェアラブル活動量計を健康増進アプリ「PepUp」登録者に各種健康増進キャンペーンを実施した。		
実施計画 (令和2年度)	令和2年度に初実施の事業計画である。						
振り返り	実施状況・時期 ①体重測定キャンペーン、令和2年9月1日～9月14日実施 ②ウォーキングラリー、令和2年10月1日～11月30日実施 ③健康クイズ、令和3年1月12日～1月31日実施 ④睡眠キャンペーン、令和3年3月1日～3月31日実施						
	成功・推進要因 ①10日間以上の体重測定239名参加、500ポイント付与者212名 ②2ヶ月継続、278名参加、1日平均8,000歩で1,000ポイント付与者205名 ③1カテゴリ正解100ポイント、全カテゴリ（全30問）正解で1,000ポイント、参加者373名、ポイント付与者305名 ④1日記録毎に50ポイント付与、参加者357名						
	課題及び阻害要因 ・40歳以上のPepUpユーザー登録数は51%から伸び悩みである。 ・令和3年度からは、18歳以上の全被保険者を対象として、ユーザー登録通知を配信する。 ・前年度未登録者1,065名に対して、再登録通知をする。 ・イベント等は、事業所対抗又はグループ別の登録なども企画して、健康推進サービスを活用する対策を図る。						
評価	3．60%以上						

事業目標
・手軽なウォーキングを実施して、健康増進を図る。
アウトプット指標
参加者登録数（【平成29年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和2年度：80%/51.2% 【達成度】 64.0%）①各種キャンペーンは健康増進アプリ「PepUp」登録者のうち参加率80%とする。[-]
アウトカム指標
目標歩数達成者数（【平成29年度末の実績値】 - 【計画値/実績値】 令和2年度：70%/27.8% 【達成度】 39.7%）・各種キャンペーン登録者のうち、目標歩数達成者は70%とする。[-]

7	事業名	歯周病予防及び禁煙対策							
健康課題との関連		・医療費のうち、歯周病関連の歯科医療費割合が毎年度約12%を占めている。							
分類									
注1)事業分類	計画	2,3-イ,3-エ,3-キ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-オ,4-カ,5-ア,5-オ	実施主体	計画	1．健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア, 1-ウ, 2, 3-ア, 3-イ, 3-ウ, 3-エ, 3-キ, 4-ア, 4-イ, 4-ウ, 4-エ, 4-オ, 4-カ, 5-ア, 5-ウ, 5-オ, 5-キ		実績	1．健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 被保険者							
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 18 ～ 74 対象者分類 被保険者							
注2)プロセス分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,コ,シ	実施方法	計画	・全被保険者に「デンタルIQチェック」を実施する。	予算額	4,500千円		
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,シ		実績	・全被保険者に「デンタルIQチェック」を実施した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ	実施体制	計画	・ICTを活用し、歯科医師が専門に作成した問診36項目に回答してもらい、口腔ケアの状況や歯の治療等の状況分析修正を実施し、対策を講ずる。	決算額	7,920 千円		
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ		実績	・ICTを活用し、歯科医師が専門に作成した問診36項目に回答してもらい、口腔ケアの状況や歯の治療等の状況分析修正を実施し、対策を講じた。				
実施計画 (令和2年度)		・前年度の状況により、具体策を検討する。							

振り返り	実施状況・時期	・実施期間は令和2年11月1日～11月30日 ・対象者4,723名 ・有効回答者1,124名（23.8%）
	成功・推進要因	・事業実施結果の分析により、セルフケア及びハイリスクによる歯科受診勧奨を実施した。 ※問診回答抽出（①問診回答で歯科リスク、②歯科レセプトなし、歯科未受診）へのハガキによる歯科受診勧奨者64名 ※歯科レセプト分析による「糖尿病＋心疾患」高リスク者へ手紙による歯科治療勧奨者137名
	課題及び阻害要因	・年間歯科医療費は医療費全体の12.5%（145.2百万円）を占めている。 ・問診チェックデータと歯科レセプトを分析して、受診勧奨を実施した経過を1年間観察し検討する。 ・当組合の被保険者の歯科医療費は、歯周病関連の治療費が90.5%である。 ※その歯科医療費を治療から管理に変えると医療費も減少し、被保険者の健康と労働生産性も向上するはず。
	評価	1．39%以下
事業目標		
・医療費のうち歯科医療費の増加を抑制する。 ・歯周病予防による健康意識の向上と禁煙の啓蒙を図る。		
アウトプット指標		
歯周病予防及び禁煙啓蒙活動（【平成29年度末の実績値】-【計画値/実績値】令和2年度：100%/100%　【達成度】100.0%）・「デンタルIQチェック」開始の周知について、全事業所の担当者及び被保険者にポスター等の周知を100%とする。 [前年度までは「お昼の歯みがきキャンペーン」を実施した。令和2年度から「デンタルデンタルIQチェック」を実施するため、令和2年度報告から数値入力する。]		
アウトカム指標		
「デンタルIQチェック」実施アンケート回収率（【平成29年度末の実績値】-【計画値/実績値】令和2年度：70%/23.8%　【達成度】34.0%）・「デンタルIQチェック」問診回答率を70%とする。[-]		

8	事業名	「つよい子になるぞ！」キャンペーン							
健康課題との関連		・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。							
分類									
注1)事業分類	計画	2,3-力,3-キ,4-イ,4-ウ,4-エ,4-カ,4-キ,4-ク,5-ア,5-イ,5-オ,5-キ,5-ク	実施主体	計画	1．健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	新規
	実績	1-ア,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-エ,3-カ,3-キ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-オ,4-カ,4-キ,4-ク,5-ア,5-イ,5-ウ,5-オ,5-キ,5-ク		実績	1．健保組合				
事業の内容									

対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 3 ～ 10 対象者分類 被扶養者						
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 3 ～ 10 対象者分類 被扶養者						
注2)プロセス分類	計画	ア,ク,ケ,ス	実施方法	計画	・3歳から10歳の被扶養者に、3ヶ月間「手洗い・うがい・歯みがき」を推奨し、風邪や虫歯・感染症等を予防してもらう。		予算額	300千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,ス		実績	・3歳から10歳の被扶養者に、3ヶ月間「手洗い・うがい・歯みがき」を推奨し、風邪や虫歯・感染症等を予防を実践した。			
注3)ストラクチャー分類	計画	イ,ウ,カ,キ,ク,ケ,ス	実施体制	計画	・健保組合が委託した業者より、本キャンペーンの案内を対象の被扶養者自宅あてに発送してもらい、家族で10月から12月までの3ヶ月間、「手洗い・うがい・歯みがき」を実施して、カレンダーにシールを貼る。 ・アンケートに回答すると商品がもらえるという仕組みを説明する。		決算額	371 千円
	実績	ア,イ,ウ,エ,カ,キ,ク,ケ,ス		実績	・健保組合が委託した業者より、本キャンペーンの案内を対象の被扶養者自宅あてに発送してもらい、家族で10月から12月までの3ヶ月間、「手洗い・うがい・歯みがき」を実施して、カレンダーにシールを貼ることを実践した。 ・アンケートに回答すると商品がもらえるという仕組みのピーアールが必要であった。			
実施計画 (令和2年度)	当組合初の被扶養者の呼吸器系疾患予防の活動について実施。							
振り返り	実施状況・時期 ・今年度初の実施 ・対象者557名にアンケート実施、回答数53名、回答率9.52%と低い結果となった。							
	成功・推進要因 ※アンケートの内容では、ご家族がお子さんに手洗い、うがい、歯みがきを実施する効果やコミュニケーション、子供医療費の啓発が図られたことが見てとれた。							
	課題及び阻害要因 ・次回の実施においては、案内開始時にアンケート回答者へのプレゼント商品を明らかにするなど、回答率向上の工夫をする。							
評価	1．39%以下							
事業目標								
被扶養者の呼吸器系疾患医療費減少への啓発。								
アウトプット指標 加入者への啓発（【平成29年度末の実績値】-【計画値/実績値】令和2年度：2回/1回 【達成度】50.0%）対象者へのキャンペーン案内回数2回実施する。[-]								
アウトカム指標								
アンケート回収率（【平成29年度末の実績値】-【計画値/実績値】令和2年度：50%/9.52% 【達成度】19.0%）・キャンペーン対象者のうち、アンケートはがき回答率。[・本事業は全国の参加健保組合との共同開催であるため、健保組合としての案内方法がいまいち、対応方法がわからなかった。]								

9	事業名	後発医薬品の使用割合の増加
---	-----	---------------

健康課題との関連	・医療費は3年間の比較において新生物は40歳代以上が多い。 ・1人当たり医療費では（良性4.58%、悪性3.28%、白血病1.74%、乳がん1.1%）となっている。 ・循環器系疾患60歳代以上が多く、1人当たり医療費（その他の心疾患4.26%、心房細動、心筋症、不整脈等）、高血圧症2.36%が多くなっている。 ・筋骨格系・結合組織系疾患の1人当たり医療費は（関節症2.17%、椎間板障害1.16%）となっている。 ・内分泌・栄養・代謝系疾患の医療費は糖尿病治療が高い割合で経過している。 ・生活習慣病の経年変化では、糖尿病、高血圧、高脂血症等のメタボが関係する医療費が高い割合で経過している。								
分類									
注1)事業分類	計画	1-イ,1-ウ,1-エ,3-ア,3-イ,3-ウ,3-エ,3-オ,3-キ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-オ,4-カ,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,7-ア,7-イ,7-ウ	実施主体	計画	1. 健保組合	予算科目	保健指導宣伝	新規・既存区分	既存
	実績	1-ア,1-イ,1-ウ,1-エ,2,3-ア,3-イ,3-ウ,3-エ,3-オ,3-キ,4-ア,4-イ,4-ウ,4-エ,4-オ,4-カ,5-ア,5-イ,5-ウ,5-エ,5-キ,7-ア,7-イ,7-ウ		実績	1. 健保組合				
事業の内容									
対象者	計画	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 加入者全員							
	実績	対象事業所 全て 性別 男女 年齢 0～74 対象者分類 加入者全員							
注2)プロセス分類	計画	イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ	実施方法	計画	・年2回、3,000円以上の個人負担が発生することを条件として、後発医薬品の差額通知」を発行する。	予算額	100千円		
	実績	イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,コ,サ,シ		実績	・年2回、3,000円以上の個人負担が発生することを条件として、後発医薬品の差額通知」を発行した。				
注3)ストラクチャー分類	計画	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,シ	実施体制	計画	・年3回、ポスター及びチラシを加入者及び事業主に配付して、後発医薬品使用の勧奨を図る。	決算額	- 千円		
	実績	ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,ク,ケ,シ		実績	・年3回、ポスター及びチラシを加入者及び事業主に配付して、後発医薬品使用の勧奨を図った。				
実施計画 (令和2年度)	・年度毎に後発医薬品使用割合を80%以上確保する。								
振り返り	実施状況・時期		・「ジェネリック医薬品」に切り替えた場合、3千円以上の支払差額該当者を傷病条件を限定せずに抽出して発行した。 ・令和2年4月～令2年9月診療分124名に発行 ※令和2年度の使用割合82.40%(前年度比+1.18%)						
	成功・推進要因		①「後発医薬品差額通知」については、年2回抽出により発行している。 (通知書は事業所経由) ②ポスター等の啓蒙活動を継続する。						
	課題及び阻害要因		・被保険者への医療費の意識向上と、健保組合の作業効率向上を図るため、電子化(Web利用)を検討する。						
評価	4. 80%以上								
事業目標									

・薬剤費用の減少

アウトプット指標

加入者への啓発（【平成29年度末の実績値】85%【計画値/実績値】令和2年度：100%/100% 【達成度】100.0%）・年3回、ポスター及びチラシを加入者及び事業主に配付を図る。[・健保だより、ポスター事業所へ配付、グループウェアでの後発医薬品推進チラシ配信]

アウトカム指標

後発医薬品使用割合（【平成29年度末の実績値】78.5%【計画値/実績値】令和2年度：82.5%/82.40% 【達成度】99.9%）・令和2年度の後発医薬品の使用割合が 82.5%まで増加する。[-]

【個別の事業】

- 注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業
- 注2) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況） ウ. 受診状況の確認（がん検診・歯科健診の受診状況） エ. I C T の活用（情報作成又は情報提供でのI C T 活用など）
オ. 専門職による対面での健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ. 定量的な効果検証の実施 ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など）
ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ. 事業主と健康課題を共有 ス. その他
- 注3) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 専門職との連携体制の構築（産業医・産業保健師を除く） エ. 他の保険者との共同事業 オ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ. 自治体との連携体制の構築
キ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. 保険者協議会との連携体制の構築 ケ. その他の団体との連携体制の構築 コ. 就業時間内も実施可（事業主と合意） サ. 運営マニュアルの整備（業務フローの整理）
シ. 人材確保・教育（ケースカンファレンス／ライブラリーの設置） ス. その他